

第 3 回館山市議会定例会会議録
(第 2 号)

1 昭和62年9月16日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 脇田 安保
3 番 田沢 勝信
6 番 山崎 雅己
9 番 山口 康雄
11 番 神田 守隆
13 番 山中金治郎
15 番 横溝 功
17 番 石井 謀
19 番 川名 正二
21 番 辻田 実
23 番 流山源次郎
26 番 近藤 好雄
28 番 飯田 義男

2 番 永井 龍平
5 番 岩村 勝弘
8 番 鈴木 勝美
10 番 鈴木 忠夫
12 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫
16 番 石井 昌治
18 番 日下 君敏
20 番 福原 勤
22 番 黒川 平治
25 番 渡辺 昭夫
27 番 林 豊

1 欠席議員 3名

4 番 庄司二三男
24 番 松下 正己

7 番 生稻 陸

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 福原 修
教育委員会 長

助 役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 渡辺 弘
水道課長 石井 敏夫

1 出席事務局職員

事務局長 庄司 利光
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 土橋 康彦

1 議事日程(第2号)

昭和62年9月16日午前10時開議

日程第 1 行政一般通告質問

開 議 午前 10 時 02 分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数 25 名、これより第 3 回市議会定例会第 2 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（飯田義男君） 日程第 1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の 9 月 8 日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を 20 分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて 30 分以内といたします。

これより順次発言を願います。

1 番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1 番議員脇田安保君登壇）

○1 番（脇田安保君） 私は、すでに通告してございます数点につきまして御質問を申し上げたいと思います。

まず、第 1 点目の地震対策についてであります。かつて南関東大地震の発生の危険性が予想されて以来、国や県においてもその対応が随時進められてきました。当市においても関東大震災をはじめ過去に何回となく大きな地震の被害を受けた経過があります。そして、これらの災害の被害を軽減し防止するためにさまざまな施策が進められてきました。その中で特に力を入れて推進をされてきました施策に自主防災組織の拡充があります。私は、今回の質問におきましてこれが現在どのように整備され、進められているかという点についてであります。

今、市内には 158 町内会あり、自主防災組織があるのは 108 町内

会で、そのうち自主的に活動の目標を立て活発に活動をしている地区は幾つかの地区が顕著であります。しかし、まだ未組織の地域もありますし、防災にあまり関心を示さないところもあるようです。私は、行政の側としてももう少し側面からアドバイスをしたり、住民の側に活力を与えていく方向があってもよいのではないかと常々考えております。この点に関して市としてどのように判断をしていますか、お尋ねをいたします。

次に、整備されている防災資器材については、市として補助をして推進をしていると思われます。いわゆるその種類としては、シート、チェーンソー、担架、医療器、ハンドマイク等、その他などありますが、私はこうした資器材の充実を図るために市として一歩積極的に補助限度額のアップはできないものかと考えます。防災資器材の種類も数もいざ本番という段になると大変不足をすると思うのでありますが、それに対してどのような対策があるのかお尋ねをいたします。

次に、小中学生の防災対策についてですが、将来を担うこれらの学生の生命を守るという施策は大変大事なことであると思います。こうした観点からこれらの対策はどのようになっていますか、どんな対策がどのように進められて、そしてどのような成果があったかを質問いたします。

次に、第2点目の九重地区の道路整備と信号機の設置について、館山市を全市的に見ましても道路整備や交通安全対策として信号機の設置は中心地、市街地に行くほど過疎地域に比較して進んでいるのは当然であると思いますが、計画されている地域や住宅地として注目をされている地域があると思います。このような地域には将来の発展や人口増を考えた道路整備や交通安全施設の整備拡充が推進をされて当然であると思います。

私の申し上げたい館野、九重地域は、鴨川や三芳村との隣接地域であり、今後の人口増が考えられるところであります。この地区の昭和61年度における車と車の事故発生数を見ますと、安東、稲、国分、広瀬、寶貝、水玉、藺、腰越、山本等の地域で25件に上ります。これらの数は市内の事故発生数206件のうち12%にあたります。

そこで、私はこの地域の道路整備の推進と信号機の設置を提案するものでありますが、まず稲地先から三芳村に通ずる市道9041号線の整備拡充はぜひ円滑に推進していただきたいと思っております。この点につきましては対策方は現在どのようなになっているかお尋ねをするものです。これは質問の第1点です。

次に、信号機につきましては、その道路9041号線に対して広瀬から竹原方面に延びている道路の交差点に信号機を設置したらどうかという提案であります。この場所にはかねてから赤色燈が備えられていましたが、何度も車との接触事故があり壊されています。この場所の信号機の設置については住民の要望もかなり強いものがあります。この点に関して市長はどのように考えられますか、お尋ねいたします。

第3点目の、老人対策についてでございますが、御承知のように急速な高齢化社会の到来によりまして、人口に占める老人人口は著しく高まっております。当市における老人人口の実態は次のようになっております。昭和61年9月ではその人口5万6586名のうち8978名が老人、つまり65歳以上の人口数となっており、これは全体の15.8%です。また、全国平均でいくと老人は全体の10.5%ですから、こうしてみると我が市は全国水準からみてはるかに高齢化社会が進んでいるといえます。

そこで、現在注目されておりますが、痴呆性老人対策であります。痴呆性老人を抱えている家庭の家族の悩みは極めて深刻なものがあ、り、多大の犠牲を強いられていることは市長も御存じのことであろうかと存じます。そこで、第1点としてお伺いしたいのは、本市にはどの程度の痴呆性老人がいると推定しておられるか、痴呆性とはこの程度、この基準に該当するものだとする物差しがないだけに難しいものがあるかもしれませんが、調査をした数字があればお知らせを願いたいのであります。

次に、痴呆性老人対策としていろいろな方法があると思いますが、以下申し上げる事項につきまして本市において施策として取り上げようとする意思があるかどうか事項別に明確にお答えを願いたいのであります。

1、痴呆性老人相談窓口を設置することはどうか。2、家庭看護の方法について啓発することはどうか。3、長、短期の保護施設を設置する

ことはどうか。4、家庭奉仕派遣制度は現在どのように推進しているか。この4点について市長の所信をお伺いいたします。

次に、第4点目の館野小学校にプールの建設はできないか——現在館野小学校におきましては東市民運動場に設置されているプールを使用しております。御存じのように市内には小学校が11校ありまして、そのうち校内敷地内にプールを持っているものが9校、道路を挟んで向かい側にあるものが1校、合計10校となっています。館野小学校の場合は学校からプールまで歩いて20分から25分はかかり、こうしたところから見ると、学校内の敷地ないし学校隣接地にプールがないのは館野小学校のみとなっております。

さて、この東市民運動場は館野小学校の正課水泳の場として、また夏季における水泳教室として使用されております。この使用に際しては、児童にとりましても、行くときはプールで泳げる喜びで勇んで出かけていきますが、終了後は疲れてとぼとぼ歩いて帰るのが現状なのであります。その上、プール授業が終わってからの生徒は疲労がはなはだしく授業の内容がなかなか身に入らないのです。

そこで、こうした欠点をカバーするために行われているのが変則的な授業時間帯の編成なのであります。つまり、校内敷地にプールのある学校ではプールでの授業が終わってから教室授業を行うのが通常ですが、館野小学校の場合はプールでの授業をその日の最終授業に持っていく、プールで授業が終わり、その場で解散という変則的な授業編成を行っているわけです。昨年、夏季水泳教室解散後に自宅に帰る途中で親子が交通事故に遭ったという記憶が当局にも新しいはずであります。

学校内でプールがほしい、そうすればどんなに便利かはかり知れないと思うのが児童たちの偽らざる切実なる声なのであります。このようにプール建設を望む声は児童だけではなく、児童の学業の向上を望む父兄の間にも広まりつつあるのが現実なのであります。私はこうした状況を踏まえてぜひ校内プールの建設をしていただきたいかねてから願い望んでいたものであります。

以上、大きく4点にわたり御質問申し上げました。市長の明快なる御答弁をお願いいたしまして、御答弁によりまして再質問させていただき

ます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 脇田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、地震対策についてであります。

その小さな第1点、自主防災組織についての御質問でございますが、この件につきましては、各地区町内会長、コミュニティ活動を通じまして自主防災会結成のための説明会を開催してきたところでございますが、その結果、現在、結成率68.4%、世帯数1万7716世帯のうち80.6%、1万4278世帯につきまして自主防災組織が結成されているわけでございます。

大規模地震の発生が懸念される今日、市民と行政が一体となって地域の安全性を確保することがますます重要となってきたところでございます。今後も防災関係機関の協力を得まして、自主防災会の結成並びに活動の活性化を図るべく、地域住民を中心とした防災対応型訓練等を通じ、防災教育を積極的に進めてまいり所存でございます。

次に、小さな第2点、防災資器材の整備についてでございますが、この件につきましては従来から年次的、計画的に進めてきたところでございます。自主防災会の資器材購入の補助につきましては、コミュニティ補助金交付要綱に基づきまして、事業費10万円以上、補助率2分の1、限度額20万円を実施いたしております。

今後、市といたしましても、必要な防災資器材の整備充実を図ってまいりますとともに、自主防災会の活性化を図り、組織活動に必要な資器材の整備充実を検討してまいりたいと考えております。

次に、小中学生の防災対策についてでございますが、この件につきましては、教育長より御答弁を申し上げます。

大きな第2点、九重地区の道路整備と信号機の設置についてでございます。

その小さな第1点、市道9041号の整備についての御質問でございますが、この道路は館山市と三芳村を結ぶ重要路線でございますが、御案内のように通過車両、特に大型車の交通量が増大しております。これに伴いまして路面の凹凸が発生しておりますので、今年度は国道128

号の交差点から300m程度の舗装打換工事を計画しており、今後も引き続き計画的に整備を行う所存でございます。

次に、小さな第2点、信号機の設置でございますが、御指摘の交差点につきましては、交通事故防止のため減速マークの路面標示、注意看板の設置等の安全施設整備を図ってまいりましたが、今後、交通量の増加も予想されることから、御提案の信号機設置につきましては、当交差点の交通量調査を実施し、すでに館山警察署を通じ県公安委員会に要望しているところでございます。

今後もさらに、警察署と連絡を取り合いまして、早期設置を県公安委員会に強く要望してまいります。

次に、大きな第3点、高齢化社会の到来による老人対策についての御質問でございますが、当市にどの程度痴呆性老人がいるかという御質問でございますが、痴呆性老人の推定人員につきましては、プライバシー等の問題もございまして、実態を把握することは大変困難でございますが、現在重度痴呆性老人介護手当の支給対象となっておりますのは、9人でございます。

次に、各項目について申し上げますが、第1点は、痴呆性老人相談窓口を設置したらどうかという御質問でございますが、この件につきましては現在保健所におきまして老人精神衛生相談の窓口がございます。毎月第1、3、4火曜日に専門の精神科医や精神衛生相談員、保健婦等が相談に応じておりますので、これらの機関と連絡を密にし、対応してまいりたいと考えております。

次に、家庭看護の方法についての御質問でございますが、高齢社会の到来によりまして、痴呆性老人等の家庭看護を必要とする世帯の増加が予想されているところでございますが、その対策といたしまして館山市保健推進員及び民生委員等からの情報提供により、地区担当保健婦が中心となり、要看護世帯等に看護技術と健康の保持増進への指導援助を目的として家庭訪問を実施しております。

また、啓発活動につきましては、ねたきり老人、痴呆性老人家庭介護教室、腰痛予防教室等各種健康教室、健康相談、ダイヤル相談、健康づくり推進講習会及び市民健康まつり等において、その予防対策について

の知識の普及、啓発活動を実施するとともに、各地区においてもその地域社会に応じた介護教室を開催し、きめ細かな地域保健活動を積極的に推進しているところでございます。

次に、長、短期の保護施設を設置することはどうかという御質問でございますが、現在、老人の保健施設としては、社会福祉法人館山老人ホームによる養護老人ホーム及び特別養護老人ホームが設置されているわけでございますが、両施設とも痴呆性老人につきましても短期入所を含め入所措置が行われております。ただし、徘徊等を伴う重度の痴呆性老人については現在のところ受け入れ体制ができていないというのが実情でございます。

今後、高齢化の進展に伴い、重度の痴呆性老人も増加することは十分に予測されますので、その対策について検討を進めなければならないわけでございますが、国におきましても昭和63年度より痴呆性老人対策の総合的推進を図ることとし、その中の一つとして、痴呆性老人の症状に適した治療介護機能を有するパイロット施設の設置に着手するとされておりますので、これらの状況を見ながら国の施策に合わせて検討してまいりたいと考えております。

次に、家庭奉仕員派遣制度は現在どのように推進しているかという御質問でございますが、家庭奉仕員の派遣につきましても、本人、家族、民生委員あるいは近所の方などからの連絡、相談を受けますと、ケースワーカーが家庭訪問を行い、状況を把握すると同時に、仕事の内容や派遣回数、時間等について相談し、その決定に基づいて訪問活動を開始するというようにいたしております。

家庭奉仕員派遣制度は、在宅福祉を推進していく上で非常に重要な施策でありますので今後一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第4点、館野小学校のプール建設の問題でございますが、館野小学校のプールは、現在、東市民運動場プールを使用しておりますが、学校から離れた位置にありますので、児童の交通安全あるいは授業の円滑化等には十分配慮をいたしております。

なお、このことにつきましては、去る7月に地元議員さんの御紹介でプール建設促進委員会からの御要望もございまして、ただいま建設につ

いて検討をいたしているところでございます。

以上、答弁を終わります。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) お答えをいたします。

大きな1の小さな3、小中学生の防災対策についてでございます。

現在、市内小中学校におきましては、校長の指導のもとに学校防災計画を立てまして、計画的に避難訓練や防災設備の点検等を実施いたしております。その結果、子供や職員の防災に対する意識の向上及び避難方法の習得等につきまして効果が上がっており、このように考えております。

今後、防災に対する市民の要望にこたえるべく、努力してまいりたい、こう考えている次第でございます。

以上でございます。

○1番(脇田安保君) ただいま種々御答弁がございました。市長の御答弁でおおむね了解いたしました。第1点の地震対策で、ここは私と多少の違いがございまして、館山市で158町内会がございまして、その32.6%が自主防災組織が未組織であるわけでございます。いろいろな地域がありましようが、本当に一貫して大事なものであり、いわゆる生命に関する大事なことです。このような地域のばらつきについてどのようにお考えになっているのか。自主防災ですから、あくまで自主性に任せるといことでありますけれども、確かに自主防災と自主性は私は尊重しますが、しかしばらつきについて市としてどのように思っているのでしょうか。

また、一生懸命自主防災活動を行っているところ、また反対に全然自主防災活動を行っていないところ、同じように、地震が起きたときには救済方法とか、対応についてどう思いますか。

次に、防災資器材でございますけれども、108地区自主防災組織が組まれておりますが、その108地区で防災資器材がどの程度——全部の地区が資器材を備えているのか、あるいはどの程度、自主防災組織の中に資器材を備えて準備されているのかという点。

また、資器材として10項目挙げられておりますけれども、そのほかに

いざというときにまだまだ不足していると思うんですけれども、その項目が何項目かあります。特に、私は感じるには、街頭用消火器とか、スコップとか鉄線ばさみ、一輪車等、器材として含まれないか。先ほど市長の御答弁で補助限度額の上限、これは対応するというものでありますので、これは省きます。

次に、小中学生の防災対策、教育長の方からお話ありました。避難訓練等逐次やられているようでございます。これは結構なことでございます。地震といいますと、どうしても一番先に崩れやすいのは窓ガラスであります。どこでも同じですけれども、窓ガラスが割れたことによりまして、その破片が飛び入ってけが人が一番多くでるということがやはり考えられるわけです。その点について現在各学校においては防止策としてどのように進めておられるか。例えば、高価なものですけれども、重要箇所にはピアノ線入りとか、明かりに害がなければテープを張るとかという対策はどのようになっていますか。

次に、過日行われました防災訓練のことについてちょっとお尋ねしたいんですけれども、私も地元ですので拝見して、非常に心強く思いました。そのときの訓練の中で高所人命救助訓練という項目ありまして、私も非常に関心を持って見守っておりましたんですけれども、そのときにロープに損傷があったということで訓練の中止が報告されました。災害時でしたらばどのように対応されるのか。また、そのときにピストルというんですか、ロープを張るのに、前もって打ち上げるのに2度、3度と失敗したんです。それを目のあたりに見まして、緊急時、災害時、1分1秒を争うときでしたらどのように対処されるのか。また、ピストル自体の火薬の威力がないのか。何メートル届くのか、何階くらい届くのか。その点をお尋ねしたいと思います。

○民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

まず、第1点の自主防災会に係る防災体制の確立についてでございますが、御指摘のように災害時におきまして最も重要なことは、市民の安全性の確保を図ることでございます。そのためには地域住民が連帯感を持ってお互いに助け合いながら災害から地域社会、あるいは人命を守ることが必要でありますし、そのため自主防災組織の結成が行われ、市と

いたしましても最善の努力を図ってきたところでございます。62年9月1日現在、御指摘のように108の自主防災組織の結成がございしますが、未組織の組織につきましては、従来にも増して今後とも地域コミュニティあるいは町内会長さん、区長さんの御協力を得て結成に努力してまいりたいと考えております。

それから、いま1点、防災訓練の件でございしますが、災害時におきまして被害を最小限度に、また住民の事故をなくするためには平素の災害に対する認識と訓練によります迅速な避難行動、的確な情報の収集などが不可欠でございします。先ほど申し上げましたように現在108の自主防災組織が結成されておりますが、自主防災会が毎年訓練を実施しておりますのは、那古地区、八幡地区をはじめ南町、三軒町、湊団地の5地区でございしますが、地域住民の防災意識の高揚を図るためには最も有効な手段であると考えておりますので、自主防災会自体が中心となりまして、防災訓練の実施につきまして今後とも働きかけてまいりたいと考えております。

それから、第2点目の自主防災会の防災備品の整備の状況でございしますが、組織されております防災会それぞれ内容が違ふこともございしますが、主なものとしましては避難旗、メガホン、ハンドマイク、チェーンソー、救急箱、担架等でございします。

それから、第3点目の自主防災会の防災資器材についての御質問でございしますが、現在コミュニティ補助で実施しております自主防災会に補助すべき品目のほかに、今、脇田議員から御指摘のございました街頭用消火器、砂袋、スコップ、鉄線ばさみ、一輪車、ロープ等につきまして補助対象はどうかということですが、街頭用の消火器につきましては設置場所、また日常の管理の方法等、非常に問題が多くございしますので、現在の段階で設置する考えはございせんけれども、スコップとか鉄線ばさみ、一輪車あるいはロープ等につきましては、コミュニティ補助金交付要綱の中で今後検討してまいりたいと考えております。

それから、9月1日行われました九重地区の合同防災訓練におきまして、消防署員による高所人命救助訓練が突然の事故により中止されたことはまことに遺憾なことでございします。原因といたしましては、屋

上と地上に張りましたロープが損傷をいたしたわけでございますが、その場合に、仮にあのまま続行したとすれば、救助者を救出するのに危険性がございました。それが1点。それから、合同防災訓練ということもございまして、時間的な問題もございました。災害時におきましてレスキュー隊の任務は人命救助にございますので、万難を排して活動をするとともにちょっとした誤りも許されないわけでございますので、レスキュー隊につきましては日頃から日夜を問わず真剣に訓練が行われておりますので、有事の際に過日のようなことはないと思っておりますけれども、御質問の趣旨を消防署に伝えまして、万全を期するように要請してまいりたい、このように考えております。

○教育長（福原 修君） 災害の際の学校のガラス窓の破損につきましの対策はどうか、こういうような御質問だったわけでございますが、私たちは網入りガラスと呼んでおりますけれども、生徒の出入りします主要な出入り口——玄関等でございますが、この戸につきましては網入りガラス戸を使用いたしております。

それから、教室の窓ガラス等につきまして、テープ等はどうかというような御意見であったわけでございますが、現在のところ照明度の関係、景観等のことがございまして、そのような考え方はいたしておりません。

以上でございます。

○1番（脇田安保君） 答弁の中で大体わかりましたんですけれども、答弁漏れかと思いますが、防災訓練の高所人命救助のときの私の質問の回答が得られませんのでもう一遍お聞きするんですけれども、ピストルの威力とか、何階まで届くとか、何メートル届くのか、それをお聞かせ願いたいんですけれども……。

○民生部長（渡辺 弘君） 失礼いたしました。お答えいたします。

45度の傾斜をもって発射した場合に約50m、10階程度まで届くということでございます。ただし、過日の訓練のときに起きましたような風と申しますか、風速によってももちろん異なるわけでございます。

○1番（脇田安保君） 大体わかりました。

地震そのものに対しても、怖さ、恐ろしさ等は認識の問題であります。そこで、自主防災組織は未組織の地区が50ありますが、防災資器材も、

108 地区組織がありますけれども資器材が全地区に揃っていないという現状です。やはり、私もそうですけれども、関東大震災、大正12年でしたか、それから63、4年経っておりますけれども、ここにいる皆さんも体験した方がどの程度おるかちょっと私も疑問なんですけれども、ですからやはりこういうことを踏まえて、最近ハサシの建物とか多くなっているわけです。ですから、やはり地震等があった場合に必ず難しい面もあります。そういう点から地震のおそろしさを知らせしめるといいますか、個人、個人が体験することがまず認識を深める点ではないかと思ひまして、当市において地震体験車——これは千葉県で何市か行っているそうですけれども、館山市でできなければ安房広域圏等で体験車の購入は考えられないか、最後にこの1点を質問しまして地震対策について終わります。

○民生部長(渡辺 弘君) 御質問の地震体験車につきましては、調査いたしましたところ県下の市では千葉市ほか8市が所有しております。当市といたしましては現在の段階で購入計画はございませんけれども、体験車をもっている市の中で貸し出しをも行う市もあるようでございますので、そのことについて今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○1番(脇田安保君) ただいまの答弁で了解しました。次に移ります。

信号機の設置につきましてでありますけれども、市長の答弁で館山警察署を通して公安委員会に要望してあるそうですが、先ほど申し上げましたように住民の強い要望もあるわけでございます。市民、住民の生命と安全を守るためにもぜひ円滑に計画を推進していただきたいと思うのであります。この点に関しましては早期実現に向かつての要望を申し上げまして、質問を打ち切ります。

次に、九重地区の道路整備の件ですが、今年度300mほど舗装整備を行うとの回答でございました。この点に関しましては、市民、住民、利用者等非常に喜ぶと私は思います。今年度の舗装ですけれども、いまだ少しこの点について質問をさせていただきます。

舗装の種類、いわゆる道路舗装、現在、ほ場整備でやりましたんですけれども、何年も経たないうちにでこぼこになった、今度舗装されるそ

の舗装の種類によって今までのように破損するんではないかと思うわけです。ですから、耐久年数とか、いろいろまちまちであると思います。特に私は今回の質問で取り上げましたことは、非常に大事な道路であるわけです。利用価値の高い道路であります。私はこの地域に生活をしておりますし、この地域の人たちと接触する機会が多うございます。それでいろいろな要望を聞くのですが、御承知のように今の道路はほ場整備事業での道路でありますし、ですから中心付近にはパイプラインが通っております。いわゆるパイプラインの途中に空気弁があるわけです。その空気弁が道路面より高いために大変でこぼこな面があるわけです。でありまして、交通の妨げになっております。このことは整備をされる際にどのように処置されるのかお伺いします。

○経済部長（安西良一君） この道路につきましては、確かに当初計画がいわゆる農業用道路というような形で整備をされたものでございまして、舗装厚等も薄いわけで、また基礎路盤といいましょうか、それも非常に薄かったわけでございます。それを今度打ちかえ計画を立てておりますが、ちょっと今厚みにつきましては手持ちがございませんが、後ほど御回答申し上げますけれども、基礎の部分から打ちかえをする、いわゆる下層路盤、上層路盤ともに今までよりも厚く計画をしておるところでございます。62年度とあと3カ年ぐらいででき得れば完成をしたいというふうに思っております。

また、制水弁の関係でございすけれども、私ども市道として引き継ぐ前の段階で、いわゆる土地改良事務所があすこに農業用の給水設備を設けて、それがところどころに制水弁があるわけでございます。御指摘のようにそういう箇所は2カ所でございます。これも実は占川者であります安房中央土地改良事務所と打ちかえ時に協議をいたしまして、そして路面の高さを調整した上でやろうということで現在計画を立てておるところでございます。

以上でございます。

○1番（脇田安保君） おおむね了解しました。ですけれども、この道路は私、地元でありますけれども、舗装の要望は本当に強い道路でありますので、速やかに整備をされますことを要望しまして、この件につい

て質問を終わります。

ただいま老人対策についての御答弁ございました。私は、最近テレビや新聞等々で取り上げられている問題で、国としても、県としても前向きに取り組もうというときにちょうど差しかかっていると判断しております。

第1点の痴呆性老人の窓口のことですが、ほかの窓口でやられているそうであります。ですけれども、やはり近い将来、痴呆性独自の窓口を設置していただきたい、そのように思います。この件に関しましては、ぜひ将来の問題として老人相談の窓口を設置してもらいたいというように私は要望申し上げます。この件については了解しました。

次に、家庭看護の問題ですけれども、家庭看護は非常に大事なことであると思うわけであります。痴呆性老人はあまり人に知られたくないとか、先ほど市長さん9名とおっしゃいましたけれども、重度心身障害者ですか、そのほかの痴呆性老人、数がはっきり出ないということですが、これは老人人口から比べますと館山市も大分多いんじゃないかというふうに推測をします。ですから、家庭看護の方法というものも非常に大事であると思います。これに対してもう一步市当局として取り組みをさらに進めていただきたい。この点に関しても要望のみで質問を終わります。

次は、家庭奉仕員制度の現状でございます。これも高齢化社会の進みぐあいによりましてもう少し当市も進めていかなきゃならないかと私は感じます。この点、奉仕員の人数の問題を含めてもう少し御検討をお願いしたいというふうに考えます。この点に関しても御要望申し上げます。

最後に、長、短期の保護施設でございますけれども、短期のみということでございました。これは私は非常に大きな問題と思います。先ほど申しましたように、推定がちょっと出ませんのではっきりと申し上げられませんが、痴呆性老人も本当に多いわけでございます。そうしたことで保護施設は絶対数が不足していると思います。そこで、この施設についての計画、これについてももう少し明らかにしてもらいたいのですけれども、これに対して前向きな、積極的な取り組みでおるのかどうかということで、先ほどもありましたけれども、例えば昭和62年度に

は全国で6カ所において痴呆性老人の施設を国として助成をしていこう、63年度には30カ所であるわけです。そのうちに千葉県としても1カ所含まれております。国自身が痴呆性老人対策に積極的に対応を進めている現状があるわけです。こうした背景では市当局が前向きな姿勢であってもいいのではないかと、そうした観点から市として今後どういう計画があるかどうかお聞かせを願いたい。

○民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

先ほど、市長の答弁の中に、63年度におきまして厚生省が概算要求の中でもってパイロット事業として8億数1000万の要求がなされているようでございますが、それは御指摘のように近年高齢化社会の進展に伴いまして痴呆性老人対策の推進ということで特に取り上げた重点施策のように感じられます。その内容を見ますと、痴呆性老人の症状に応じた治療、介護機能を有するパイロット施設を設置して、痴呆性疾患に関する調査、研究を推進するんだとしております。したがって、この内容につきましては、現在7施設がモデル施設として全国で行われておりますけれども、それらの各調査を行いまして今後に対応しようとしているわけでございますので、市といたしましてもこれらの推移を見て、やがて制定されるであろう基準等の内容も考慮して、どこまでこの痴呆性老人に対して行政が行うべきか、そのようなものをとらえて検討してまいりたい、そのように考えております。

以上でございます。

○1番（脇田安保君） 前向きな姿勢であると思っておりますけれども、ぜひ積極的な取り組みをお願いしまして、この件についての質問を終わります。

最後に、館野小学校のプールの件ですが、先ほど申し上げましたようにこの問題大変重要な問題であります。住民の関心が多く集まっている問題です。前向きな姿勢で取り組むという御答弁でありました。大変喜ばしいことと私は思いました。先ほど申し上げましたようにプールまで20分から25分時間がかかるわけでございます。当然、これはどういうことかと申し上げますと、学校の敷地内にプールがないということでございまして、館山市内見渡しても館野小学校のみというわけでござい

ます。現在、使われております市民運動場のプールは館野小学校の正課水泳の場としても使用されており、また夏季には水泳教室も開かれ、使用されております。活用度も高うございます。こうした使用に関しましても、児童にとりましても行くときはプールで泳げるとの喜びで勇んで出かけるんでございますけれども、実際にプール授業終わってからは帰ってくると疲れてしまう、これは現実的なことであります。ですから、そうしたことから非常に教育上問題がございます。こうしたことはこれから解決していかなければならないのではないかと私は考えるのであります。そうして、こうした欠点をカバーするために現在行われているのが非常に変則的な時間帯です。これは御承知のように変則的な時間帯で行われるわけでございます。どうかこうした点から館野小学校のプールの建設をただいま御答弁ありましたように前向きに、早い時期に住民の要望にこたえるよう御努力をお願いしまして、私の質問を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で、1番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

○21番（辻田 実君） 通告いたしました4つの問題について御質問申し上げたいと思います。

まず、第1に観光問題を前回の議会に引き続きまして御質問を申し上げます。

本年も夏季観光安全対策本部のまとめによりますると、7月10日から8月30日までの海水浴客の入り込み数は前年の96%にあたる43万8900人と発表されております。非常に残念なことだと思います。そこで、海水浴客の減少の原因ともなっている3点についてお伺いをいたします。

まず、第1点は排水対策でございます。汐入川、平久里川から館山湾に流れ込む家庭雑排水は大変な量であると思います。まずその流域の世帯数とその水量を教えてくださいたいと思います。

また、この区域内での工場、事業所等から流れ出すところの工業排水も1日の量がどのくらい見込まれているのかあわせて教えてくださいたい

いと存じます。

さらに、平久里川と汐入川に流れ込む化学洗剤の1年間に流し込まれると予想される数量についておわかりでございましたら、これも教えていただきたいと思います。

また、平久里川と汐入川に流れ込むところの家庭雑排水、産業排水の浄化対策の現況についても御説明をいただきたいと思います。

第2点は、海岸線の美化対策でございます。館山湾の海岸線は道路、家屋が海に近いので30年前の海岸線が半分に縮まっておりといえます。美しい松もほとんど姿が見えなくなっていました。このことは多くの海水浴客を集めるために致命的なものになっておられると思われます。今すぐに海岸道路を海岸線より100m離し、30年前の位置までに引き戻らせることは困難だと思われます。しかし、海岸には無許可で放置されている船舶が8月6日の県と市の合同調査によりますと195隻あるそうでございます。これだけでも撤去すれば海岸線は広くなり、美しくなると思われます。また、無許可の工作物で海岸線が占領されているところもありますが、この点をどのようになされていくのかあわせて伺いをいたしたいと存じます。

第3点は、海岸通りの駐車場問題でございます。私は、この夏、九十九里と湘南の海水浴場を車で見てまいりました。館山市と異なっている大きな点は、第1に駐車場の大きさでございました。良い海水浴場ほど駐車場が大きいのです。駐車場の大きい海水浴場が良い海水浴場で、お客も多かったといった方が適切だったと思われますが、館山湾の海水浴場には駐車場が非常に少ないのでございますけれども、現在この地域にどのくらいの駐車台数が見込まれるのか教えていただきたいと思います。

次に、総合保養地域整備法、通称リゾート法の地域設定の促進について御質問を申し上げます。

リゾート法は、御案内のように5月20日に参議院で議決され、続いて5月22日に衆議院で成立しました。通常の場合と逆でございますけれども、この目的は国民の余暇利用をし、総合的なリゾートを民間活力で行おうとするものでございます。したがって、この狙いは21世紀に向かい館山市にとっては千載一遇のチャンスであり、国、県、そして民

間の活力を導入してこの事業を行うならば、現在の館山市の財政力からみて100年もかかる大事業を一挙に行うことができるものといっても過言ではないと思うのでございます。したがって、私はリゾート法の地域設定を受け、世界的なリゾート地に館山市になるようにしたいと思い、浅学非才な上、微力ではございますけれども、少しでも役に立ちたいと決意をして今回の市議会選挙にすべてをなげうって立候補した次第でございます。そこで、市長のリゾート法に対する決意と所信をお尋ね申し上げたいと思うのでございます。はっきりとした明確な御答弁をお願いいたしたいと思います。

まず、その一つは、千葉県が策定いたしました2000年の千葉県の冊子の中で、南部地域、すなわち館山市を中心にした南総については、緑と海の豊かな自然と特色ある地域産業を活用しつつ、首都圏のリゾート地として発展できる地域として有望であるということが指摘されております。また、今回、国が決定した4全総でも京葉道路の館山市までの延長と房総半島はリゾート地として有望であることが明記されております。それゆえ館山市がリゾート整備計画を真剣になって作成すれば、県の設定と国の認可は絶対に間違いなく得られるはずでございます。市長の見通しと確信についてお伺いをいたしたいと思います。

2つ目は、県内では館山市を中心にした19市町村と夷隅郡を中心にした33市町村と鉾田市を中心にした25市町村の3カ所が候補地として名乗りを挙げ、つばぜりあいをしていることが新聞や7月13日の建設省の伊藤専門官を迎えての講演会の中でも明らかにされております。そこで、巷間伝わる話と私の調査、点検をした結果からみて、条件は館山地域が第一であるけれども、取り組みは一番遅れているように思われます。この心配はないのか私はお伺いをしたいのでございます。

3つ目は、リゾート法の国会審議の状況を見ても、リゾート法の適用を受ける決め手は第一に民間事業者の協力であります。第2は土地の確保だとされていますが、この点に対するとおころの取り組みが非常に弱いように感じられます。どんなに条件に恵まれていても、また国の方針や県の構想に合致していてもどうにもならないのがこの法案の扱いでございます。この点は市長はどのようにお考えになり、対処してまいる所存

★ なのにお尋ねをする次第でございます。

第3点目の質問に移ります。JR快速の館山までの延長についてでございます。

JR快速の君津から東京駅を経由し横浜、鎌倉、久里浜まで往復している列車は首都圏の足として重要な役割を果たしております。先日、発表されたJRの決算でも全国1、2位を争う黒字線になっております。この快速は君津から館山に延長されることは館山市を首都圏に組み入れる重要な鍵となっております。21世紀は東京湾時代といわれております。なおさら快速の乗り入れは大切な課題であると思われるます。

そこで、お伺いいたします。市長が君津から久里浜まで1日12往復している快速をいかにお考えになっているのでしょうか。また、この夏は上下7本の快速が館山まで接続されております。それにもかかわらず夏が終わると打ち切られてしまうのはなぜなのか、その理由と原因をお尋ねいたす次第でございます。そして、これから市民挙げての取り組みが必要であると思いますが、市長の所信をお尋ねする次第でございます。

最後に、城山公園周辺の水害対策について質問を申し上げます。

城山公園は館山市の文化のシンボルを目指し、博物館をはじめ、彫刻の森、桜、ツツジ、ツバキ、梅等の植物がたさくさん植えられまして、立派に整備されていることは非常に結構なことであると思います、しかし、そのために城山が従来 of 形を変え、これまでにない排水の必要が大きくなっていることは明らかでございます。多くの木を切り、平地をつくり、その上舗装された道路が多くできたから当然でございます。そこで、これらの排水が十分整理されていないところの周辺の水路に流れているので、雨が降ると水があふれているところが数カ所出ております。その結果、一部の地域では家屋浸水と災害の危機にさらされているところもあります。そこで3点についてお伺いします。

1つは、上須賀と真倉にまたがる字御屋敷地域は、城山の排水のため今接近している台風が上陸すれば即座に人災を伴う災害が起こることが予想される状況にございます。緊急な対処が必要だと思っておりますけれども、早急にこの工事をやっていただけるのかどうかお伺いをいたします。

2つ目は、前から繰り返してお願いされておりますところの館山神社

裏の排水路と通学道路と土手の整備についてでございますが、いつになったら着手していただけるのでしょうか、この見通しについて明らかにしてもらいたいと思います。

3つ目は、城山公園は市の事業とし、整備しているものですが、しかし、周辺地域の環境の整備が伴っていないので、地元ではこれが民間なら大変に問題になるところだが、市だと「予算がない」で一言で済まされてしまうのではたまったものではないという大きな不満と不信が出されております。そこで、この周辺地域の環境は公園の一環として整備されるべきものだと思いますが、市長の御意向と所信をお伺いいたしたいと存じます。

以上で質問を終わりますが、具体的にわかりやすい御答弁をお願い申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点のうちの小さな第1点、雑排水対策についての御質問でございますが、汐入川の流量は1日4万2000トでございます。平久里川につきましては調査をしたことがございません。なお、それぞれの川に流入する雑排水あるいは工場排水、あるいは洗濯水等につきましては調査をしたことがございません。

現在、汐入川流域の世帯数は5679世帯、特定施設は26施設でございます。また、平久里川流域につきましては、富山町、三芳村を含め5194世帯、特定施設は24施設でございます。

発生源対策といたしまして、各家庭でできる洗濯時等の対策として、洗剤の適正量使用、無リン洗剤の使用などを盛り込んだチラシを全戸に配布いたしまして、河川の汚染防止に努めているところでございます。

また、昭和61年度から水切りごみ袋の使用促進を図り、水質浄化の意識高揚、啓蒙施策を実施しております。

次に、河川、排水路対策といたしましては、昭和61年度に都市排水路浄化モデル施設を設置、昭和62年度には八幡都市下水路に礫を利用した浄化施設を施行中でございます。

今後、さらに水質浄化の意識高揚を図るため、家庭でできる浄化対策

を進めるとともに、都市下水路を対象に生活排水処理施設を予定をしており、あわせて家庭用小型合併浄化槽の普及について検討をいたしてまいります。

次に、小さな第2点、海岸線の美化の問題でございますが、観光都市館山にとりまして、海浜は重要な観光資源の一つであることは言うまでもございません。この海岸の国有地には無許可で占有している遊漁船及び工作物等が目立っていることは御指摘のとおりでございます。

過ぎた8月、市は館山土木事務所、関係漁組と合同で現地調査を実施いたしました。その結果、船については198隻、そのうち153隻が県の指導を受けております。現在、県が県全域の調査を実施しており、その後、県としての方針を打ち出すと連絡がございました。

工作物等の不法占拠につきましても、対処しなくてはならないと考えておりますが、いずれにいたしましても許可権は県にあるわけでございまして、許可権者である県に働きかけ、環境美化に努めてまいる所存でございますが、この問題を解決するには地域住民、地元の住民の方々の協力が必要であると考えております。

次に、小さな第3点、駐車場対策についてでございますが、館山湾内の那古海岸から沖の島までの国有地等を駐車場として有効利用してできる駐車台数は約750台でございます。市といたしましても駐車場として整備可能な八幡海岸につきましては、昭和59年度から昭和60年度にかけ整備をいたし、また駐車場として利用可能な国有地につきましては、公共空地占用許可を受けまして観光客の利便に供しているところでございますが、御承知のとおり駐車場として利用できるスペースが少ないため十分な駐車場が確保できないのが現状でございます。

次に、大きな第2点、総合保養地域整備法の設定促進についてでございますが、総合保養地域整備法の施行は、総合計画で目指しました海洋性リゾートタウン計画を推進するにあたりましてまたとない機会でございます。このため安房11市町村が一丸となって地域指定を受けるべく国、県に対しまして陳情等運動を重ねてきているところでございます。

また、本市が重点整備地域として指定を受けるためには、他のリゾート地と比較して優位性のある総合的な開発計画を策定しなければなりま

せん。このため、民間の動向に配意しつつ、調査研究を進め、地域の特性を生かした計画を策定し、県で作成いたします基本構想に反映させるべく努力をいたしているところでございます。

館山市の取り組みが一番遅れているという御指摘がございましたが、決してそういうことはございません。むしろ、館山市が県内で一番進んでいるという評価を県で受けているところでございます。

次に、第3点、J R 快速の館山までの延長についてでございますが、J R 快速が平常時運転を継続できない理由はどうかという御質問がございましたが、平常時の利用が少ないという採算性の問題でございまして、乗客の需要があるのか、採算ベースに合うのかどうかということが快速運行のポイントであるとJ R 当局の見解がでございます。

次に、快速線の循環化運行の評価と館山までの快速が運行されていないことについての問題意識はどうかということでございますが、首都圏、とりわけ東京湾岸の通勤、レジャー等の手段として、また地域の活性化を図る上で、循環化の果たしている役割は重要なものと認識をいたしておりますが、館山までの快速運行につきましては、先ほど申し上げましたように採算性の問題があり、館山駅の1日平均乗車人員も減少傾向にある中で、その実現を図ることは大変難しい面があろうかと存じます。

いずれにいたしましても、地域の利便性の向上や振興を図る上でメリットがございましたので、引き続き努力をしてまいり所存でございます。

これまでの対応につきましては、J R 内房線複線化促進期成同盟を中心といたしまして、関係機関への要望、陳情活動等を行うとともに、半島振興計画などの策定に際しましても、館山市として輸送改善等の意向を示し、計画に反映されるよう努力をしてきたところでございます。

今後の対応につきましては、J R が民営化に伴い採算性を重視しつつも、地域密着型の経営方針を打ち出しておりますので、あらゆる機会を活用いたしまして積極的な対応を図ってまいりたいと考えております。

次に、城山公園周辺の水害対策でございますが、御指摘のございました災害の危険性の考えられる場所につきましては、地元の方々に伺いましたところ、従来から土質の関係で地下にみずみちがあったと聞いてお

りますが、早急にその原因を調査し、対応策を講じてまいりたいと存じます。

また、城山公園周辺の雨水排水につきましては、流末整備の関係もありますので、総合的な排水計画を立てまして整備してまいりたいと考えております。

また、御質問の中にございました館山神社裏の通学路及びその道路の排水につきましては、経済部長から御答弁をいたさせます。

終わります。

◎経済部長（安西良一君）　ただいまの館山神社裏の舗装、排水の関係でございますけれども、これにつきましては去る３月議会でも御答弁申し上げてあるわけでございますが、山からのしぼり水等で付近の方々に大変御迷惑をおかけしておる、また通学路にもなっておるというようなことで、整備計画を考えております。

しかしながら、この用地につきましては、神社の所有地でございますので、この了解が得られるならば次年度で排水等の整備をいたしたい、あるいは舗装等もいたしたいというふうに考えております。

なお、御承知でございましょうけれども、現在は素掘りで一応対応しておるということになっております。

以上でございます。

◎２１番（辻田実君）　再質問させていただきます。

まず、最初に、浄化対策でございますけれども、県の保健所等の調査によりますと、汐入川の汚染は県下でも有数のことだ、そして千葉市の都川よりもひどい結果がここ数年出ているということがいわれておりますが、その原因が、一つは作名ダムの建設によりまして、特に夏等におきましてはほとんど放流がないためにむしろ下水、雑排水、こういうところから流れ込むものだけがあそこを通過してそのまま汐入川に入っていくという現実じゃないかと思われましても、この点についてはどうなのかまずお伺いしたいと思います。

◎民生部長（渡辺弘君）　御指摘のように汐入川の場合——６０年の８月に主たる河川、排水路の調査を行ったわけでございますが、その結果を見ましても、汐入川流域の排水路の汚れが特に目立っております。

ただ、作名ダムの建設に伴いまして——確かに流量があれば自然稀釈が行われるわけでございますので、汚れにつきまして薄められる、そのような作用はございますし、また川自体も自浄作用があるわけでございますけれども、流量がなければ稀釈するということはございませんので、御指摘のことにつきまして、その原因につきましてははっきり申し上げるわけにはまいりません。

以上でございます。

◎ 2 1 番 (辻田 実君) 排水対策につきましては、ただいま申し上げましたようにほとんどそのまま家庭の雑排水、その他がたれ流しという現実であるわけでございます。それに対しまして、チラシ等で各家庭の協力依頼とか、さらに水切りを配布して対処していくということでございますけれども、このようなことではほとんど解決にならないんじゃないかというふうに思われますので、この点についてはひとつ抜本的な対策を立ててやはり排水対策ということを考えていかなければ、とにかく汐入川、平久里川の河口におきましては大変な汚れでございまして、地元の人たちはほとんど館山の海岸で泳がずに西岬だとか千倉の方に行くというのが現実でございますので、この点については、そういうことではなくて根本的な対策を立てていただきたい、このように思います。

それから、海岸線の美化対策につきましては、今、御答弁がございましたけれども、県の管轄だからということでございますけれども、当然県もこれらについて処理しなければならないと思いますが、そこで一つお尋ねいたしたいのは、153船隻が県から指導を受けたということをお伺いしておりますけれども、この点についてはどういう内容なのかお伺いしたいと思います。

一つは、指導されてもそれを収容するところの——船ですよ、多分あそこら辺の漁船や小釣り、観光漁船、ヨットとかが多いと思いますけれども、そういうものを収容することがなければ、仕方なくまたあそこに置かなければ生活が成り立たないという循環があるわけでございます。そういう点については館山湾内に対するとところの観光船、そういうものに対するとところの設備が非常に遅れているというふうに思われるんですけれども、そういう点についてはどのように指導されるのか。そして、

153隻は指導を受けたらちゃんと指導された場所に入って、漁民については営業はできるのか、観光船については観光業ができるのか、この見通しについてはどうなっておるのか、わかる範囲で結構でございますからお尋ねしたいと思います。

◎経済部長（安西良一君）　まず、153隻の船が指導を受けたというその内容でございますが、御案内のように県がこの用地を管理しているわけでございます。ある一定のところをそこから借りるわけでございますので、占用地域として一定地域を借り受けましてそこに船を置くというような形で、現在申請書を出させたという段階でございます。

県の方といたしますと、これは全県下に及ぶ問題でございますので、館山市の方からそういう働きかけをしたという関係がございまして、本庁の方に上げましたところ、本庁で統一的な処理をしたいというような考え方もございまして、しばらく待つてほしいということで、現段階ではそれを受けまして県が待っている——本庁の指導を待つてさらにどうするかということでこれから処理をしていくということになっております。

それから、それらについての巻き揚げとか、そういった施設ができるのかどうなのかというようなお話でございましたが、これらにつきましては、大体、現在船の引いてあるところが数隻から数10隻、ある一定の地域にまとまった形で船が引き上げられておりますけれども、できることならばそのブロックごとに責任者、指導者といひましようか、そういう方々をその中で選んでいただいて、できるだけその人たちの指導のもとに船はもちろんのこと、周囲の用地の管理についても清掃をしたり、草取りをしたり、そういうことで指導をするようなことでお願いをしたいというようなことで現在班長さん選びといひましようか、そういうことをやっておるという段階でございます。

それから、漁業との関係でございますが、これは全く漁業者とそれから一般の方々、遊漁船の方々とは区別がおのずからしてございまして、こういう管理の方法をとったからといって、漁業者と同じような方法で漁業が営めるといふものではございません。

以上でございます。

○21番(辻田 実君) ただいまの答弁ですと、具体的に指導をする観点、そういうところがないように思われるんですけども、私は端的に申しまして、館山の海岸線というのは幾つかの人が複合的に活用していかなくちゃならない、一つはあそこの海でもって生活している漁民の利用、生活面からの必要、もう一つは館山市が一つのメーンにしているところの観光客の誘致としての面、さらには昔から伝わるところの地域の伝統的な行事とか、伝統的なコミュニティの場としての利用、こういうものが複合しているわけですから、ただ、今の答弁で参りますと、地元のそれぞれの人に適当なところを——適当ということ言っただけは語弊がありますけれども、県に行って許可をもらってそこに置けば無許可でなくなる、こういう形ですと今言ったようなことの総合性においていろいろな支障が出てくるんじゃないかと思う。そういう面では観光、地元、そして漁民、こういうものとよく市が中心的に話し合っただけで、この地域にこういうような形でやっていたら支障がないんじゃないか、こういうことをとらない限りには前進しないんじゃないかと思うんですけども、そういう積極的な姿勢を示す意向があるのかないのかお伺いをいたします。

○経済部長(安西良一君) そういう点につきましても、むろんのこと県との話し合いの中ではそういうことも含めて許可を与える、そして指導していきたいというふうに考えております。

○21番(辻田 実君) その点については積極的にやっていただきたい。私も協力してまいりたいというふうに考えておりますので、今後に期したいと思います。

それから、もう1点、西の浜、上須賀、楠見の海岸というのは非常にすばらしい海岸線を持っておったんですけども、港ができたりいろんな事情でもって、海岸が全くゼロという状況でございます。その中にはまだ無許可の工作物によって使えないところがあるわけですから、ここら辺については全く今の状態では3地区におきますところの海岸線というのはごみが捨てられたり、畑みたいのが無許可でつくられたり、いろんなふうになってしまって全く入る余地がない、こういう状況でございます。これに対して地元としても非常に困ったということ

でございますけれども、市として地元と協力して県等にこれらの対策について協力するということとはできないのかどうか伺いたいと思います。

◎経済部長（安西良一君） 確かに、御指摘のように現在水産大学の実習所のあります前の海岸、これが畑地といたしまして耕作されておる、これも無許可である、それからいわゆる柏崎の漁港のところにつきましても大変古鉄等が散乱いたしましたり、あるいは車等が置かれたりしてちょっと見苦しいというようなことで我々も考えております。こういったことも含めまして実は県の方にいわゆる美化運動の一つといたしまして働きかけをいたしておるわけでございます。したがって、8月の6日にはとりあえず船をやるということで船の実態調査を行ったというのが実情でございます。これからも引き続きまして海岸美化の面につきまして県と協力し合いながら、また地元の協力を得ながら積極的に美化に努めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎21番（辻田 実君） 地元では大変な不満でもってごうごうとしておりますので、私もそこら辺を取りもちまして、今の御答弁にありましたように市も協力していただけるようでございますので、今後早急に県等とも話し合って、海岸の美しさを出さなければ観光客を呼ぶところではございませんで、むしろ幻滅を感じるのが現状でございますから、ひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

それから、観光問題の最後になりますけれども、駐車場問題について、あの広い館山湾岸で、あれだけのものというのはちょっと房総地区にはないわけでございますけれども、そこに駐車場として可能なものが750台ということですから、これでは観光客が全部来たら750人ですよ。今1台に2、3人乗ってればいい方で、1人1台という状況があるわけですから、あそこでもって1日何千、何万という人を海水浴で呼ぼうとしているわけですから、そして多くの旅館だとか民宿はそれに手ぐすねをひいて待っているわけですから、これじゃとてもじゃないけど観光、観光と宣伝しても容易じゃないんじゃないか。私も、さっきも言いましたように湘南、また九十九里に行きましても、ざっと見回しても300

0台、4000台が入るような海岸線より広いところが駐車場になって、有料がほとんどでございますけれども、入るのに何とか入れるんです。

館山に帰ってきて車を置こうとしても置くところがないし、えらい違いだなと感じたんですけれども、この点については八幡地区等の国有地の利用とかそういうことを言っておりますけれども、この問題が解決しなければ、マイカー時代の今日館山市は観光をどんなにPRしてもほとんどの大半の70%から80%は車で来るわけですから、それが止まらないということだとそのまま帰らざるを得ない。私は何人かの人に聞いたんですけれども、館山に行っても車置くところがないから外房にそのまま走っちゃったという人が随分いるわけです。

ただ、単に外房の施設が云々ということよりも、そこに一つのアクセス鍵は、館山は車で来ても車置くところがない、仕方なしに車のおける場所に行くという状況が非常に大きなパターンとして出てるんじゃないかというように思いますので、この点についてはこういった数字を出て論議されるということはそうなかったと思いますので、この数字を率直に受け止めて、これじゃ観光なんていうところじゃありませんよ、700台か800台では。市民センターと同じぐらいの規模ですから、これでもって館山は経済力をよくしようなんてとんでもないことです。ここは今後真剣に協力し合いながら解決策を図り、そして観光客が安心して館山の海に来れるようにしたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

次に、総合保養地域の整備でございますけれども、今、市長も申されておりましたように条件としては抜群です。この点については千葉県知事が6月24日にリゾート法が成立した直後に記者会見しまして、千葉日報とか日本経済新聞等にやっているわけでございますけれども、その中でも知事は「何としても千葉県に持ってきてたい。特に4全総の中におきまして南総地域がリゾート地として最適だということもいわれているわけだから」、こういうことを発表しながら、言っているわけでございますから、国も県の施策もリゾートといえは館山をおいてほかにないだろう、こういうことがいわれておることは確かでございますけれども……。

そこで、一番問題なのは、さっきから指摘しておりますこの法案、御承知のように一つは土地の確保ですよ、15万畧以下の土地、それに相当するところの土地が必要だということ、館山だけで100畧ですから、これの何10倍という地域を用意しなきゃならないということですから、そうしたところの連携が必要だと思う。それらについては協議会もできているようでございますからいいんですけれども、ここで私が指摘したいのは3000㎡以上の施設を持つ重点地区を幾つか設けるということになっておりますけれども、館山市におきましてこの3000㎡以上の土地を民間業者に提供して、そして重点地区を早急に立てられるというような状況と目安というものは現段階でもってあるのかどうなのか。これはもう法律が施行しまして8月にはその要綱も決定しまして、今、来年に向かいまして指定、認可に一生懸命やっているわけでございます。これからというわけにはまいりません。少なくともこの点について予想されとか、可能だということろは、具体的に言うといろいろ問題があるかも知れませんけれども、その点について私はちょっと心当たりがないのでございますけれども、この点についてはどのようにとらえておるのかまずお伺いしたいと思います。

◎経済部長（安西良一君） 現在、私どもが一応考えているところというように御理解をいただきたいと思いますが、いわゆる西岬方面、内湾地域でございますが、ここの地域、これが大きく分けまして2カ所ほどございます。それから平砂浦地域、それに豊房地域というようなことで、大きなところでは4カ所予定を立てております。

◎21番（辻田 実君） これは国会の論議の中におきまして、国土庁の沢田局長が答弁している中にこういう答弁があるわけです。「このリゾート法の適用を受けるについては、民間による整備が確実であるという見通しがあることが基本構想承認についての不可欠な条件になっておりますので、そのような民間によるところの施設の整備の熟度の高い地域が当面それほどたくさん出てくるとは思われませんが、そこに決まっていく」、こういうことが言われているわけでございます。

と同時に、同じことでもって土地の確保がなかなか無理じゃないか、設定することによってその土地が非常に値上がりする、地上げ屋等に

よって、値上がりするとその土地を買って民間がそこにリゾート施設をつくることになると採算ベースができなくなってしまう。こういう点については地方自治体なりそういうところが土地を買収し、そして提供するとか、そういう形でもってかなりの便宜を与えていかないと困難だ、そしてその点については、この問題の中では一番大きなことは土地問題と民間業者であるということが繰り返されております。そうした点について場所としてはとにかく南総地域が一番いいということでございますけれども、この前鴨川で開かれたリゾート法の講演会の中でもいわれておりましたけれども、儲かるか儲からないかということが民間が進出するかしないかの鍵だというようにいわれているわけでございます。そういう点ではかなり市有地なり国有地の確保をして、そして提供していかなければこれだけのものを出ていってなかなか困難だろうというふうに思われるわけでございますけれども、そうしたところの問題はいかがでしょうか。克服できると思うのか、その点についてお伺いしたい。

○経済部長（安西良一君） 今回のリゾート法案につきましては、できるだけ民間活力といいたししょうか、民間企業を利用して指導、誘導をして、そしてリゾートの整備をしていこうというようなことが狙いでございます。その中にあってしからは公共は何をするのかといえますと、やはりインフラ整備、公共でやるのが最も適当だ、例えば水道の整備だとか下水道の整備だとか、あるいはそのほか公園の整備だとか、こういったようなものが地域の公共機関がやるべきことであって、用地の取得まではやはり公共にとっても限度があるというふうに理解しております。

○21番（辻田 実君） 市長は一番進んでいるということでございますけれども、それは私が指摘しましたように条件的には一番適しているわけです。東京湾横断道の建設に伴うところの千葉県下に及ぼすところの経済的なインパクトという、野村経済研究所の研究の中においても南総地域についてはリゾート地として非常に有望になっていくということが出ていますから、そういう面では一番有望であることは事実。4全総の中でもはっきりと明記されているわけでございますから、国も認めているわけですから。

しかしながら、つい4、5日前の朝日新聞にも出ておりましたけれど

も、浦安にリゾートタウンというのができるという計画が出てました。すでに10何社の企業が進出して、その総事業費が約2000億に達するというようなものが明らかになって、今それについて一生懸命進められているということが出ております。さらには、夷隅については東武、西武がすでに土地の買収に入っているかなりの進出をしているから、あとそれについて上乗せすればいい、こういう状況まできている。

館山はそれらに追いついていくについては、かなりまだそういうものというのは目安がついてないんじゃないか。来年あたりに大体めどがついていかなきゃならないということでもって、条件的には一番いいけれども地元の主体としては一番遅れているんじゃないか、こういう点なんですけれども、そこら辺については抜本的にやっていかなきゃならないだろう。今、部長から答弁ありましたけれども、西岬はいいだろう、ここはいいだろうという段階は過ぎていると思います。海洋リゾートタウンならリゾートタウンとしてこれをやっていく、こういうこと等も十分考えて、かなり市として決断をして進んでいかないと乗り遅れてしまうという状況——全国でも20カ所にならない、1県1つが指定されるかされないかわからないという状況の中ですから、ほかへ持っていかれちゃう。このチャンスを逃がすと、とにかく総事業費としては大体1000億以上ということがいわれておるわけでございますから、こんな事業なんていうのは館山市では独自ではできないわけなんですから、全部の予算使ったって100億ですから、そのうちの事業費というのはせいぜい10億ぐらいしかないんですから、100年かかるわけです、1000億という額は。それがこの構想の中でできるというんですから、これを逃がすと館山はもうこれからの発展ということについて非常に乗り遅れるという危機があるので真剣にやっていただきたい、このように考えているわけでございます。

この点については、次の中でも詰めていきたいと思っておりますけれども、早急に民間の問題、そして館山市の問題——土地ですよ、安い土地が提供できるかどうか、民間は安い土地があれば来るんです。そして、土地が高くなれば出て来れる状況ではないし、まだそうした民間の折衝はない、民間の折衝が進められているところは、もう千葉県では今言ったよ

うなところも何か所があるわけでございますから、館山の将来のために、何としてもこの実現のために努力していただきたいと要望しまして、次の議会まで継続して論議をしたいと思います。

時間がございませんので、最後に一つだけお伺いをいたします。城山周辺の整備については早急に行うということでございますけれども、「早急に行う」というのはなかなかできないんですよ。議会用語というのは「善処します」とか、「それについていずれ対応します」とか、「調査してやります」ということはやらないということだというのが常識になっているんですけれども、今の答弁でその範囲ができないんですよ。今年度内か来年度内にやってもらえるかというその決断を私は迫っているわけです。特に、城山の災害地域については、先ほどの答弁の中でもって、昔からみずすじがあるからという問題じゃないと思います。昔からあるのは小さいみずすじなんです。そこへ城山から大量の何10倍、何100倍という水が流れ込んでいるから大変な事態を迎えようとしているわけでございます。これが一端起きれば、私は指摘しておきますので、災害でも起きた場合には大変なことになるわけでございますから、「早急」というのはどういうことを指すのか、今年度内はどうか、来年度には具体的につけるということは言えないのかどうか、その点について御質問申し上げたいと思います。

○経済部長（安西良一君） 調査は今年度中にいたします。

○21番（辻田実君） 調査だけじゃないんですよ。やってもらわなきゃ困るんで、城山には何10億とかけてあれだけやってるんですよ。当然ああいうものをやるにはその周辺からやっていかなきゃいけないんですよ。地元住民の理解を得ながらやっていかなければものごとは進まないわけです。そこら辺考えて、上ができちゃって今でも城山の化粧直しに相当の金がかかっているわけです。とにかく調査したら早急をお願いしたい。また、今後、中で詰めていきたいと思います。

○議長（飯田義男君） 以上で21番議員辻田実君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時00分 再開

○議長（飯田義男君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

2番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2番議員永井龍平君登壇）

○2番（永井龍平君） 私は、すでに通告してあります諸点について質問いたします。

私は、現在、館山市が千葉県また南房総における一大中核都市として位置づけられる使命と責任は大変に重要であると思います。それは国や県の施策を見てもうかがい知れるところのものであります。すなわち、次に挙げるような一大プロジェクトがスタートいたしました。1つに東京湾横断道路の着工、2つに半島振興法の適用、この計画に伴い木更津から館山間に内房縦貫道路建設計画が6月の閣議で決定になりました。3つに総合保養地域整備法の整備候補地として誘致計画があること。そして良好な自然条件と風光明媚の鏡ヶ浦と平砂浦海岸を有する本市に何としてもこのリゾート法が適用されることに私たちも最大限に努力し、その実現を図ることを願ってやみません。

さて、このような施策が推進されていきますと、10年後に東京湾横断道路の完成、半島振興法とリゾート法の恩恵により、本市も飛躍的に変貌して、人口増と流入も増加し、大発展を遂げるでありましょう。私はこの未来の構想図は今現在出発するにあたり、今、館山市として何をしなければならないのか、これを考えたいのであります。

それは、水資源の確保と渇水と水不足の問題でございます。市長は、昨年の9月の定例会で日下議員と田沢議員の半島振興法と館山市政の関連についての質問に対し、「本市の優先的重点目標としてはまず道路交通網の整備促進と水資源の開発が地域振興の中で極めて重要な事項であると考えております」と答弁しております。第1の重要課題である道路、交通網の促進の問題は、さきに述べたとおり木更津—館山間に内房縦貫道路が4全総、またふるさと千葉5カ年計画に盛り込まれました。この縦貫道が完成すれば本市も袋小路性から大きく脱却するわけでございます。私は、第2の重要課題である水資源の開発と確保の問題、これをさらに実現に即して渇水と水不足対策について質問したいのでございます。

御承知のとおり、ことしの6月、7月の首都圏の異常渇水、水不足の深刻な問題がありました。水消費がいよいよピークに差しかかる夏本番を前に30%の取水制限という史上最悪の事態に追い込まれたのでございます。東京等1都5県が水がめと頼る利根川水系6ダムの貯水量が一時4500万ℓまで下がり、このまま雨台風にでもならなければ取水制限もさらに強化されるという非常事態になりました。この渇水の主因は異常気象であります。まず、関東地方では昨年の12月から今年の2月までの平均降雪が平年に比較して30%から50%程度に終わった。続いて4月、5月はカラカラ天気続き、さらに6月に入ってから平均並みに梅雨入りしたものの雨はほとんど降らずじまい、東京84ℓ、前橋71ℓと軒並み平年の半分以下で推移いたしました。このように異常気象ゆえの異常渇水でありました。

幸いにして、安房地方の本市はこのような災害は免れましたが、対岸の火として見過ごすわけにはまいりません。本市は冬季には皆無に等しく降雪はありません。もし、梅雨時に雨が降らずから梅雨になったときを思いますと、夏本番の最需要期の渇水、水不足のパニック状態を想像するとそら恐ろしく感じてなりません。

さて、以上のような状況を背景にしてこの問題を考えてまいりますと、当市においても種々今後検討されなければならない点が数多くあるかと思えます。そこで、質問でございますが、まず第1に、現在、当市においてはダム3カ所、深井戸24本で1日最大給水量1万8100ℓ、これは市営水道でございます。それに三芳水道3000ℓ、合計2万1100ℓとなっており、62年度水道事業業務の予定量を見ますと給水戸数1万2335戸、年間総給水量343万5000ℓ、1日平均給水量9411ℓとなっております。特に、夏季観光客の入り込みによる1日の給水量は平常時の約2倍になるといわれます。現在、このような水事情で市民生活に十分に安定供給が可能であるかどうか、市長の御所見をまずお伺いいたします。

第2問に、近い将来、10年後当然予測されます問題、すなわち東京湾横断道路等による人口流入増でございますが、現状の水事情ではどうして対応できないものであらうかと思われます。この点に関しての市長

の計画や考えをまずお尋ねいたします。

第3に、現在の雨頼み水資源では降水量が少なければダム計画論は厳しい現状にあると思うのでございますが、この点についてはいかがでございましょうか。

第4に、節水型都市として総合的雨水、雑用水の利用に関しての施設の整備は、将来的に確実に推進していかなければならないものがあるかと思いますが、この点について市長はどのようにお考えになっておりますかお尋ねいたします。

以上、水の問題について終わります。

次に、学童通学路の整備、点検について御質問いたします。

過日、館山警察署、館山交通安全協会により各戸別に交通死亡事故多発緊急事態のチラシが配布され、交通事故防止の啓発運動が推進されております。館山署管内の交通死亡事故が7月28日現在、去年の2倍以上となり、まことに憂慮すべきことであります。車社会の時代にあって車の果たす役割は人間社会に大きな文明の利器として活用されておりますが、その反面、走る凶器として貴い人命を奪っております。今週の交通安全週間を契機に市民と当局が一丸となって交通事故撲滅運動を強化していかなければなりません。

さて、私の質問は、上真倉にある相生橋に側道橋を設置していただきたいということでございます。この道路は自動車交通量が非常に多い道路であり、長須賀方面から豊房、安布里、南条、また下町、白浜方面から行き来し、通行者にとって大変危険な通行事情となっております。去る8月13日に自転車で行っていた中学3年の女子が乗用車に衝突され、顔などに負傷させて逃げた事故が発生しております。また、小さな事故は常々起こっております。

この道路は、館山小学校の通学路になっており、低学年66人、高学年63人、計129人が通学使用しており、一般通行者にとっても大変な通行の難所となっております。相生橋の道路幅は4mで普通乗用車が徐行してやっと交換できるという道路幅でございます。通学児を安全から守る対策としては朝の通学時間の7時から8時に車両通行禁止になっており、また常時大型車の進入禁止になっておりますが、不心得なドラ

イバーがおり、この規則を守らず、この時間帯に多くの車が通行しているのが現状のようでございます。また、父兄が現場での交通指導として学期初めの1週間と毎月の15日に青柳と真倉の交差点で指導をしているようでございます。また学校側としてはこの通学路に対しては一番頭を痛めておるようでございますし、校内、校外の交通指導をしていると伺いました。しかし、これだけの対策では限界があると思われます。事故の予防策としてはまことに不完全であると考えます。

この側道橋の設置の施策は、通行利用者の強い要望でもあり、21世紀を担う大事な子供たちを交通災害から守るためにぜひとも早期実現を図っていただきたいことを強く要望いたします。市長の御見解をお聞かせいただきたいと思います。

次に、防災行政無線の活用について御質問申し上げます。

現在の世の中は、情報化の時代といわれ、情報を最も早く的確に入手することがいかに重要であるか。地震、津波、火災、台風等大規模な災害が発生したとき、テレビ、ラジオの情報網が即座にニュースとして報道され、私たちの安全体制の確保の一助となっております。また、本市も防災対策といたしまして地域防災計画に基づき60年3月に無線放送塔、すなわちパンザマストが設置され、本年度で57局が完成し、一応の計画が達成され、防災のメインテーマである安心して暮らせる安全なまちをつくるという目標を目指し、推進されてきております。

このパンザマストをどのように活用するかについては市の計画を見ますと、1、津波注意報の発令、1、大津波、津波警報の発令、1、震度4以上の地震の発生、1、東海地震に対する警戒宣言の発令、1、台風が本市に上陸するおそれのあるとき、1、災害後の救援物資等の配給や復旧活動について、1、その他災害に関する事項としております。そして、ただし書きにあるように、防災行政無線としては原則として災害時以外には使用しません、ただし、無線が正常に作動するかどうかを点検するため毎夕5時にチャイムを鳴らしますとあります。

私は、このパンザマストの活用を他の市町村と比較したのでございますが、他の市町村では広報としてさまざまな警報、注意報、火災発生、選挙広報、その他を放送しているのが実態でございます。当市は毎日夕

方5時のチャイムしか放送しておりません。その活用についてもっと幅広く多岐にわたって使用があった方がよいと思うのでございます。

また、市の総合計画の防災の項目によりますと、風水害、いかなる災害においても行政機関の速やかな対応とともに市民の自主的な防災活動なしには被害の防止及び軽減を図ることはできないとしております。これについては市民の一人一人の自主的な防災活動の中の避難活動が非常に重要だと私は思います。さきの放送内容は大災害の発生がなければ放送はしない、活用しないということであります。私は人命を災害から守るため、また災害にも大災害、小災害がある意味でもう少し活用をしていただきたいと強く要望するものでございます。その理由としまして、市民の方々にこの活用について100人程度の方にアンケートをとったところ、ほとんどの方が私の意見に賛成してくださいました。

また、今夏の雷雨による死亡事故がありました。全部戸外での落雷の死傷事故であります。7月15日には愛知県でサッカーの練習中に落雷、12人の死傷者を出しました。また、8月5日には高知県生見海岸でサーファーに落雷、6人死亡、6人が重軽傷するというショッキングな事故もございました。この事故の夜のテレビニュースのときに、気象庁の方が雷について解説しておりましたが、雷の発生は突然起こるのではなく、雷の発生する30分から40分前に気温が下がり、その後に発生すると解説しておりました。このようなことから災害は発生前に情報を出して防止することが可能であるといえます。

このように、大災害発生、また発生後の放送だけでなくして、市民のニーズにこたえる活用をお願いいたしたく思います。市長のお考えをお聞かせいただきたく思います。

以上で質問を終わります。どうか市長の前向きの御答弁を期待しております。なお、御答弁により再質問をいたします。以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 永井議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点は、水資源確保と渇水対策についてでございます。

その小さな第1点、現状の水事情についての御質問でございますが、御案内のとおり、本年は作名ダムの貯水量が6月中旬に満水時の3分の

1に減少いたしました。夏の給水が心配されましたが、幸いにその後の雨と需要者の方々の節水御協力によりまして夏季の平常給水ができたわけでございます。しかしながら、この夏はお盆過ぎまで給水量の伸びが見られました。また、8月の雨量も少なく、20日には貯水量が再び32%台に落ち込み、現在29%程度となっております。この対応といたしましては、引き続き節水のお願いと山荻地内の長堰からダムへの揚水に努めているところでございます。その結果、ダムの貯水量は今のところ横ばいの状況にございます。

次に、小さな第2点でございます。将来の人口増に対する対応策ということでございますが、お説のとおり東京湾横断道路をはじめ、半島振興計画や南房総のリゾート地域整備などを進められていこうとする中で、将来の水需要が増大することは必至でございます。水資源の確保は重要な課題でございます。当市といたしましては、さきに半島振興計画の中に君津地域からの導水、福沢ダムの建設、他の事業体との連絡管布設及び海水淡水化事業の推進について要望いたしましたところでございますが、県では半島振興計画の中で南部地域の総合的な水資源開発利用計画の策定に係る調査を実施いたしまして、地域の実情に即した広域的な水資源開発を図るとしております。市といたしましては県の計画と整合性を図りながら、将来の水需要に対応してのダム建設を進めていく所存でございます。

次に、小さな第3点、第4点の質問でございますが、当市では水道水源の約半分が河川表流水によるものでございます。御承知のとおり、ダムは降水量と集水面積により大きく左右されます。現ダムの立地条件からいたしましても雨頼みとなることも事実でございます。したがって、水資源確保のため新たに水源の開発を進めることが必要でございますが、その反面で既存の水資源の有効利用を図ることも肝要でございます。その一つといたしましては、需要者に水の有限性を訴え、大切に使用するようパンフレットの配布などを実施をいたしまして、節水意識の高揚に努めているところでございますが、当市の水事情からいたしましても節水型社会への指向は必要であろうと考えております。

次に、大きな第2点、学童通学路の点検、整備についてでございます

が、御指摘の館山小学校、幼稚園の通学、園路となっております相生橋交差点から青柳交差点までの間におきましては、学童、園児の安全から朝7時から8時の通学時間帯の車両通行禁止規制されており、また交通指導員による登校指導を月3回程度実施をしておりますが、さらに警察、学校等と連絡を密にし、通学路全般にわたり各種交通安全施設の点検、整備を行うとともに、警察署の指導、取り締まりとあわせ安全確保を図ってまいり所存でございます。

次に、相生橋周辺の交通上の問題は、御指摘のとおり学童はもちろんのこと、一般の通行者等にも支障を来していると思われます。したがって、側道橋の建設のみならず、この付近一帯の交通障害の解消を踏まえ、現在検討いたしているところでございます。

次に、大きな第3点防災行政無線の活用でございますが、本市において最も配慮しなければならない災害は地震災害であります。これに伴う津波災害の対応と発災後の情報の的確な把握、伝達について防災行政無線は極めて有効な役割をもっております。したがって、津波危険地域への整備と避難場所への屋外拡声子局を設置したところでございます。

防災行政無線の活用につきましては、屋外拡声子局の放送は災害に関する情報提供であるとの習慣を市民の方々に強く持っていただくことが大切でございますので、災害時以外は原則として使用しない方針でございます。しかしながら、市民の生命及び財産に係る緊急かつ重大な災害に関する警報等が発令された場合には、状況に応じて十分に活用を図ってまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎2番（永井龍平君）　まず、第1点の水の問題でございますが、大体現在の水事情についてはわかりましたけれども、作名ダムは現在29%の現状である、今日夜半から台風がきてしまって大変場の悪い質問になってしまいますけれども、この施設能力でもし仮に、先ほど本質問に触れましたけれども、安房地方が首都圏のような異常気象による異常渇水が起きた場合、三芳水道とか、あるいは福沢ダムとか今後建設されとありますけれども、安房地方全体の降水量となりますと大体同じような降水量になると思われるわけでございます。この点についてもしそ

う異常気象が生じた場合、その給水対策はどのようにお考えになっておられますか。これをまず一つお聞きいたします。

また、私の手元に館山測候所で観測した昭和56年から62年の年間月別の降水量のデータがございます。これを見ますと、1969年から1980年の10年間の平年の降水値が1793.4㍉、約1800㍉でございますが、これを基準に昭和56年から62年の7年間の平年値を比較いたしますと平年降水値1800㍉を下回る年がなんと5年間もあるわけでございます。だんだん降水量は減ってきておるわけでございます。昭和59年の渇水のあった年から連続して4年降水量が減っております。簡単に紹介しますと、手元でございます、56年がマイナス221㍉、57年がプラスの159㍉、58年にプラス241㍉、59年は渇水の年で大きくマイナス540㍉、これはすべて1800㍉を基準とした上げ下げでございます。60年度はマイナス150㍉、61年度がマイナス160㍉、62年度が8月までしか出ておりませんが、昨年並みにいたしまして計算しますとマイナス350㍉、このようになっております。

したがって、このような状況を考えて、年々減ってきておる降水量に対して、本市では年間の最低降水量をどのくらいに見ておられるのか。また夏季需要期に対する6月、7月、8月の降雨量を最低限どのくらいに見ておられるのか。これをお聞きいたしたいと思います。

次に、小さな2点の将来の人口増に対する対応策でございますが、先ほどの答弁の中で、南部地域総合水対策でございますか、県サイドで半島計画の中で水問題を取り上げて検討する——県当局にも強く要望していただきたい、このように思います。また本市サイドでも現状の水資源ではまことに不十分と考えて何か新ダム計画が検討中であるようなことも耳にいたしました。本市もダムの立地条件が非常に厳しいものがあるかと思っておりますけれども、もし新ダム建設のお考えがあればそれはどこになりますか、もしあればお尋ねいたします。

本市もこの10年で大きく発展することは間違いございません。人口の流入増、水の供給問題は最重要の課題として取り組んでいかなければならないと思えます。市の総合計画では75年度にはさまざまな諸情勢

を勘案しておおむね6万人の人口増を予想してございますが、これからさまざまなプロジェクトが推進、完成してまいります。この程度の人口増では収まらない、私はこのように思います。

私の調査によりますと、岡山県の牛窓町という小さな町がございすが、牛窓町は10年前に日本のエーゲ海として売り出し、ヨットハーバー等を中心に総合的な海洋リゾートタウンとして発展してまいりました。51年より事業を開始して以来、10年間で3倍の観光客数となつて、しかも長期滞在型のお客も多いようでございます。この町を一例といたしましたが、本市も必ずや近い将来、人口増は予想されます。現段階では未知で流動的な施策で試算するには無理があるかと思いますが、人口増加は10年をめぐりどのくらいになると思われるのか。また、その人口増に対する給水能力計画等はどのようにお考えになっておられるのか。

以上のことを踏まえて先ほど御答弁ございました海水淡水化の設置の問題、また、君津からの工業用水等の導入の問題等、いかがお考えになっているかもう少し具体的にお答え願いたい、このように思います。

次に、3番、4番を一括して御質問いたします。

先ほどの市長さんの御答弁で節水の運動等、いわゆる水源確保の問題、裾野の水の利用等お答えございましたけれども、ここに私、2つの事例を通して節水運動に関してちょっと御紹介しながらやってみたいと思います。

まず、節水都市へ脱皮した福岡市がございします。この福岡市では52年の12月から翌年にかけての半年間、福岡の降水量は平年値の約6割に過ぎなかった。53年の5月17日総有効貯水量は満水時の19.3%に落ち込んで以来、同20日から第1次給水制限、その5日後に第2次給水制限等を行いまして、287日間の渇水の地獄を体験した市でございします。人口114万人でございしますが、54年3月まで続いた渇水地獄の後に福岡市は行政住民一体となって節水に取り組み、この年の9月に全国初の下水处理水利用のモデル事業に着手、水漏れを少量におさえるため、配水をコンピュータで管理する配水管理センターも56年に完成した。今では全世帯の9割に節水こまが普及している。この結果、

52年から61年にかけて給水人口が18万人もふえましたが、現在の1日平均水使用量は35万7000ℓと当時と変わっていない。このようになっております。

また、本年の3月にできました港区の市役所の水の再利用システムの状況でございますけれども、これによりますと、その庁舎では1日に110ℓの水を使うそうでございます。そのうちの雨水利用または雑用水道——捨てる水ですね、それをまた濾過して再利用した水を便所洗浄水等に約半分弱の50ℓ使う、上水道を60ℓ使って計110ℓ、このように運営しているようでございます。建設費、設備の増分として6220万円かかって、そして維持管理費を考慮して約9.3年で経費を回収できる、このような設備をつくっておるようでございます。

これから大変に水の問題は大きな問題だと思います。どうか、この2つの事例を通して、人間、あらゆる生を営む生物にとって水は大変必要な不可欠なものでございます。年々の国民1人当たりの水の使用量も増加しておりますし、または15年後の21世紀には10人のうち7人までが水不足に見舞われると心配しておるようでございます。ダムをつくるにも大変なお金がかかります。そういった意味でこの節水運動と申しますか、節水意識の高揚をこれからもいろんな館山市の発展に備えて市の最重要課題として考えていかなければならない、このように思いますが、こういった事例を通して市長のお考えをお聞かせいただきたい、このように思います。

○水道課長（石井敏夫君） お答え申し上げます。

第1点の異常渇水によります安房地方の関係でございますが、降雨量につきましては御案内のように本年は異常渇水だということでございます。その特徴といたしまして、特に場所によって大分その雨量が違ってくるようなことがございます。安房地方といたしましては、県の指導もございまして、渇水時には相互応援をし合うというようなこと、また河川等からの揚水に努め水の確保を図るというようなことでございまして、当面、館山市水道といたしましては三芳水道との間で、市道海岸線でございますが、200ℓ口径管約1000m現在工事中でございます。したがって、こういう連絡管——これは県の補助事業でもございます

が、ものによりましてできる限りの応援をし合うというようなことで今後ともやはり考えていきたいと思ひます。

それから、2点目の年間の降雨量の関係でございますが、私の手元にも作名ダムの浄水場の観測記録がございます。おっしゃいましたように降水量の少ないのは昭和53年、それから59年、降水量としますと1451㍓、それから1454㍓ということで、1450㍓台でございます。したがって、最低限どのくらい見ているかということでございますので、雨量とすれば1400㍓。多いときには2300㍓のときもございます。平均しますと確かに1900㍓程度の雨が期待できるというようなことでございます。

降水量との関係は、先ほど市長の方からお答え申し上げましたが、館山市のダムの立地条件からしまして集水面積が極めて小さいというようなことで、やはり平年の雨量がございませんと、夏の時期が心配になるというのが現状でございます。

3番目に、新ダムの関係についての御質問でございますが、予定候補地があったら示していただきたいというようなことにつきましてお答え申し上げます。巴川の上流、東虹苑の北側にあたりますが、そこに昭和57年からダムの候補地として調査をいたしております。57、58、59年にかけて地質調査、流量観測、それから測量調査も行ってございます。したがって、現段階ではダム候補地としては効率の悪いところ——当市には効率のよいところは見当たらないというようなことでございますが、大体作名ダムと同じような集水面積、同じような現状の河川流量でございますので、そこにダムを進めていく。これは次年度あたりから予算化して進めていきたいというふうに考えております。

それから、人口の10年後はどのようなことになるかというようなことでございますが、市水道といたしましての将来予測は立てておるわけでございます。しかしながら、先ほど来出ておりますけれども、リゾートがらみの関係でどのように人口と給水量が伸びていくかという点につきましては、まだ現段階では数量的に出ておりません。既存の給水の伸び等から推測してまいりますと、給水人口にしては10年後はほぼ横這いの状況であるというような予測、それから給水量にしますと1日最大で館山市

水道の場合には2800ℓの不足、それから三芳水道の場合ですと館山市分が約3000ℓの不足、そのような予測になっております。しかしながらリゾートがらみのいわゆる大きな施設等が出てまいりますと、当然それらの水量では賄えず、大ざっぱに申し上げますと5000ℓ内外の開発が必要じゃないかというふうに考えております。

それから、次に君津からの導水、海水の淡水化についてでございますが、君津地域からの導水につきましては、県はそれが即実現の方向に行くというような答えは出しておりませんし、先ほど答弁の中に出ました南部地域の水資源の開発利用計画の策定ということで、河川それから地下水、海水淡水化等含めていろいろ地域の実情に即したものが無いかという検討が進められておるところでございます。

その中の、今申し上げました海水淡水化につきましては、県で本年度一応の調査をまとめまして、63年から65年の間で安房、夷隅に3カ所モデルプラント日量100ℓを建設するというところでございます。当初、私たちは、県が日量100ℓのモデルプラントを県の事業として行うという解釈をしておりましたが、最近その会議がございまして、それによりますと、各水道事業体が事業主体となって、希望があればそれに対して助成をしていくような考えだということでございますので、海水淡水化の優位性といえますか、雨が降らなくても水がとれるということ、それから短期間にそういう工事ができる、いろいろ利点もございしますが、なにしろ給水原価と申しますか、コストが相当に高いというようなことでございますので、即モデルプラントまたは2000、3000ℓの施設を建設計画の中で進めていく、すぐそれに飛びつくといえますか、そのような状況にはまだ至っておりません。

以上、答弁といたします。

○2番（永井龍平君） 大体、水事情あるいは10年後のいろいろな問題に対しての対策、考え方等御答弁いただきましたけれども、何といっても先ほど私申しましたように、三芳水道と応援し合うという形も今おっしゃられましたけれども、何せ安房地方に降らなければ応援し合うにもできないわけでございます。こういったところもよく検討して、節水意識の高揚等もしながら対策を考えていっていただきたい、このように

思います。

ちょっと時間がございませんので、水問題についてはこれで打ち切りたいと思います。

次に、学童通学路の問題についてでございますが、先ほどの御答弁でございますと、この辺一帯の通学路の整備検討をしております、このように市長さんの御答弁があったと記憶しておりますが、私のところに、館山小学校に通う129名中の何名かでございますが、その通学路で通学する小学校5年の子供たちの作文がございます。これをちょっと読んでみます。

「『相生橋のひろさ』、5年2組 加藤なつき。学校帰り相生橋を通ると、ときどき車がじゃまでかばんを持ち上げなくてはいけないときがある。それである日ふつうに歩ける広さのとき歩いていくと、たまたま車にちっときずをつくってしまった。やばいと思ったのもそのままじゃいられない。車に乗ってたおじさんが『ばっきゃろー、人の車にきずをつけやがって、ふざけんじゃねー』と思いきりどなられてしまった。私はそのときからなんで狭いまなんだと思った。私は次の日からかばんを上げたり、反対方向から行ったり、駐車場のかべの上からジャンプしたりして大変だった。反対方向から行くとたまに車が来て、走っていったりしなくてはいけない。荷物が重いときはもっと大変だ。雨の日必ず反対方向からいく。ジャンプすると服が汚れたりしてだめだ。だからとってもこまる。いやこまり過ぎる。特に自動車の場合、歩きよりこまる。車は来ないなあと思って前に進むと車がくる。だからUターンして車と同じ列になればなくちゃいけない。それで信号が黄色になったら列から出て車の左前に出る。それしか早く出せる方法はない。バイクは車と同じ列に並んでいるけどたまには前に出ようとして事故にあった人がいた。おかあさんもおとうさんもしんせきの人たちも、はっきりいって相生橋全体が狭いと思うとおかあさんたちは言っていました。ほかの人たちもみんなそういうことを言っていると思います。だから相生橋を広くしてください。そうすればみんな道のことでこまる人、事故などは少ない、いやぜったいないと思います。だから相生橋を広くしてください。」

もう一編だけ。『相生橋のひろさ』、5年2組 和泉真紀ちゃんです。

「相生橋は車の通る数が大変多く、私たちが学校へ行くとき、帰るときもあぶない道です。相生橋のところを通ろうとすると、あとからあとから車が来ます。それで私たちはなかなか通れません。中には止まって通してくれる人はいますが、大体の人が止まってくれません。私は車が来ないので急いで行こうとしたら車がスピードを出してきたのでぶつかりそうになってしまいました。そのときはもうぶつかってしまうと思いました。そのときはもう相生橋なんか通りたくないと思いながら家に帰りました。家に帰ってからそのことをおかあさんに話したら、『相生橋はもうあぶないからもう少し広くしてくれるといいね』と言っていました。私の友だちと二人で帰っていたら、相生橋の信号のところで血がありました。友だちと二人で『また事故があったんだ』と話しながら帰りました。私は道がせまいと事故が多いんだなと思いました。もう少し道を広くして通りやすい相生橋にしてほしいと思います。」

7編ほどきておりますけれども、漫画入りで、このように本当に子供たちが大変に苦勞をして通っている道でございます。早急に相生橋に側道橋を検討なさると今市長さんから御答弁ございましたけれども、何とか一般通行人はもとより通学児のためにそういった通学路があってはならない、このように思うわけでございます。どうか側道橋をつけていただきたい、このことを強く御要望いたします。よろしく願いいたします。

あとは、パンザマストの件でございますが、これも先ほどの御答弁の中で、緊急事態、災害に対して放送をするということでございましたけれども、大変な予算でおつくりになったわけでございます。市民の方のアンケートもほとんど多目的に使用してくれというような要望になっております。どうかこのパンザマストの件についても、警報、注意報、できればいろんな暴風雨、暴風雪、波浪、高潮、大雨、洪水、大雪、雷雨、いろいろな警報がございします。また、食中毒警報もございします。火災の発生の問題もございします。そういったことを考えまして、利用方を強く御要望いたします。よろしく御答弁ください。

○民生部長（渡辺 弘君） 防災行政無線の子局の利用につきましてお答えを申し上げます。

御質問の中にもございましたように、市はその設立の目的を、防災に限って使用することを原則として設置いたしたわけでございますけれども、放送する内容といたしまして、その他災害に関する事項の中で異常乾燥に基づく火災警報が発令されるような場合、それと災害によりましてがけ崩れ、また橋の決壊等によって主要道路が長期間に通行止めになるような状態、あるいは大雨警報ですとか、雷雨警報等の気象警報が発令されたような場合、さらに災害による地域における停電等につきまして長時間にわたり復旧の見込みがないような場合、また火災の延焼及び強風下における飛び火の危険が予想されるような場合、そのようないわゆる市民の財産、生命に危険を及ぼすような場合におきましては、その利用について、そのときどきの状況に応じまして検討してまいりたい、そのように考えております。

以上でございます。

◎ 2 番（永井龍平君） 側道橋についての問題はいかがでございましょうか。

◎ 経済部長（安西良一君） この道路につきましては、交通量もかなりある、あるいはおっしゃいますように幅員も狭いというようなことで大変混雑しているということは私ども十分承知しております。こういう道路を解消しよう、あるいはネットワーク上もこれは大変必要な箇所であるというようなことから、またその安全対策という面をあわせまして、市ではなるべく早く整備したいということで考えております。地権者の関係もございますが、でき得れば来年度調査をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎ 2 番（永井龍平君） 質問を終わります。

◎ 議長（飯田義男君） 以上で 2 番議員永井龍平君の質問を終わります。続いて、2 3 番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（2 3 番議員流山源次郎君登壇）

◎ 2 3 番（流山源次郎君） 民主クラブを代表いたしまして、次の 5 点につきまして御質問を申し上げます。

その質問に入る前に、私は、去る 8 月 2 6 日自民党の政調会が白浜で

行われましたときに、特別の好意をもって参加させていただきましたが、その席上で館山市長さんが、我々の常日ごろからこの議会また委員会等におきまして要望しました水資源の問題、また体育館の問題等を取り上げまして県に強く要望した、それを聞いておりまして非常にありがとうございました。ここで感謝を申し上げます。

まず、第1点といたしまして、半島振興法またリゾート法につきましては、我々といたしましても市の執行部同様に3回、4回なりそれぞれの地区におきまして講師と話をいたしまして、また講師の説明等聞きました。先ほどまた辻田議員からのお話もございまして、ある程度の知識はあったと思いますが、市といたしましてもとにかく多くの調査費を出して、今後の問題に取り組んでいくということでございますので、半島振興法及びリゾート法の問題は割愛させていただきたいと思っております。

ただ、その中におきまして、現在、ある程度話題に上っておりますところの文化会館の建設、この問題につきましては大体水資源の問題、また道路の問題、その中に県の大きな目玉問題といたしまして文化会館の件が上程されておりますし、また市のある委員会におきましては、この問題で市からも説明があって、半島振興法にからんでの文化会館建設の件は認めたというような新聞記事がございました。この件につきましては、市として大体どれくらいの規模で、どのくらいの予算で、どこに文化会館ができるのか、もしおわかりになったらお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点といたしまして、これも8月26日の自民党の政調会の席上で、ある町長さんが現在整備されつつ、またこれから国、県、地元で力を入れておりますところの国道127号、それから410号線の2本が完備された場合に、はたして10年先、20年先には道路の非常に混み合う問題が解決されるかという問題がテーマになったと思います。そのときに県会議員の先生方のお話では、本来ならばあと2本縦貫道路が必要だ、しかしながら環境整備法とか山中の問題とか、予算の関係でとても東京湾横断橋ができた場合には間に合わないというような答弁がございました。

私、それを聞いておりまして、また先日の鴨川市におけるところのリゾート法にかんがみまして、講師の方が海から少しでも早くリゾートのある場所、また魅力のある海とそういったものをいきたいということはリゾート問題については当然考えるべきだということがございましたが、海というものは御承知のとおり水産業協同組合法とか、またそれぞれの許可漁場の問題がございまして非常に難しい問題が相当ございます。しかしながら、館山市及び安房郡は、昭和の初期以前は陸上交通があまり発達してなかったために、東京湾汽船等によりまして海の航路を主体としておったわけでございますが、この海の航路について、市としては陸上はだめだったら、交通が緩和されなければ、海からの交通は考えられないか。これにつきましては各漁協ともそれぞれ漁業権等をもって生活している海でございますので、非常にその折衝等は難しいと思いますが、この点につきましては我々議員といたしましても、また執行部としても館山の10年先の将来を考えた場合に、この海上輸送についての御意見がございましたらお聞かせ願いたいと思います。

第3点といたしまして、広く多くの人々のアイデアを求める考えはないか。これは半島振興法またリゾート法は館山にとっては今後活性化ができるかできないか非常に大きな問題でございます。このときにあたりまして、市民の多くのアイデアを求める考えはないか。それをお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点といたしまして、西口開発と裁判についてでございますが、市長の専決処分の件はやはり我々議会がそれを認めたということで、良識ある方は議会が認めたんだから議会もこの問題は逃げることはできないという非常に厳しい声がございます。それに対しまして過日裁判におきまして全面的に市が勝ったということに対して我々は心からありがたいなと本当に思ったわけでございます。

しかしながら、8月の25日におきましては原告が再度これを上告したという問題でございまして、2、3の新聞におきましては、この問題が出た限りはまた西口開発は凍結されてしまうという見出しを見ました。この点につきましては、とにかく1億何千万という市民の大事な金を使ってできた問題がいまだに解決されず、また今後裁判の終わるまで凍結

されてしまうのかということになると非常に我々も責任を感じるのでございますが、この点につきましては裁判中といえどもこの問題は関係ないかどうか、その点をお聞かせ願いたいと思います。

さらに、市民サービスについてでございます。とにかくコンピュータ時代といいますか、半澤市政において非常に大きな成果を上げたものでございますが、コンピュータによっていち早く他市に先がけましてパソコン等設置いたしまして、現在館山市の市民課に参りますと、この事務の処理は今までの倍以上、早いものでは3倍ぐらい早くあっという間に書類ができてしまうんです。

これはいいんですが、幾ら仕事が早くても、窓口には市民の方がいらっしゃって、住民票がほしい、印鑑証明がほしいといっても受け付けてくれる人がパソコンにかかりつきになってしまって、それを取ってくれない限りは幾ら事務が早くても不可能でございます。市民課の方としてもよく様子を見てみますと、年中2人くらいは皆さんから受ける仕事を待機している方はございますが、葬式とか異動の問題が来るとそこにかかってしまうわけです。あとすぐに住民票ほしいという人が待てど暮らせど市民課で右往左往してしまう。コンピュータによって仕事は早くてもそれを受け取ってもらわなければ早くできない。これはやはり市民課のサービスとして予算の関係もございましょうし、また人員等の問題もございますが、何とか考えて、いい知恵でこれを解決していただけないか。

それから、第2点は、里道、生活道及びハンディ道路——これは私道に関係しますが、道路の整備についてでございます。一応、現在、館山市の市民が生活する道路というものは、里道問わず、私道問わず、ほとんどみな生活道として必要にしているわけです。ところが市といたしましてはまだ市道が全部舗装されない、完備されないということで、一応材料支給とか、そういう点で補っているわけです。

前回の6月の定例会でも同僚の横溝議員からこの問題が提訴されました、市の方としてよくこれを考えてくれということを出してありますが、一応、里道として生活道は予算が5割なり何なり材料支給がついたということではいいんですが、ハンディのある私道とか袋小路、また昔から

40年も50年も続いて昔の人はのんきなもので、道路をつくってもやはり自分の土地の名前を消してないというようなことで、いざ市で調査に行きますと、道路の下にその家の地所があっってしまう。これは現在の人に比べると「何で家の道だけやってくれないんだ。固定資産税は遠慮なしに取って、今度我々が道を直してくれという段階になると、それはハンディのある道路ということで予算も何もくれない。こんなばかなことはない」ということは、それは現在悪徳不動産が建て売りして、その道路をつくらない、そういうものは決してやる必要はないと思うんですが、40年も50年も経っておじいさんから、お父さん、親の代までなっていないまだにそれはハンディのある道だということで、材料支給もならないということが往々にあるわけです。

結局、よく調べてみると、市道でさえも実際問題はその下に自分の土地になっているのが相当あります。それは市道と認められたからやる、それで40年も50年も使っていても認めないところは材料支給もならぬということは非常に市民サービスにハンディがあると思いますので、この点につきまして善処をお願いしたいと思います。

さらに、海岸清掃美化問題でございます。北条、館山地区は比較的ボランティアの皆さんの活躍とか、また市で臨時の職員等雇いまして、海水浴場の中心地でございますので、非常に整備等さしていただいております。

ところが、一步離れまして船形の海岸なんかへ参りましたら非常にひどいもので、通る車から缶は投げ捨て、何は投げ捨てということで、地元の区で町内会長いろいろ話し合いまして、せめて館山市で缶なんか入るかごを設置してもらえないかということで、たまたま環境生活課に参りましたら、「海岸のそういうのは観光課の所管だ」、観光課へ参りますと「いや、私の方は予算がないからできないけれども、予算をつけても、あなた方そこへ缶を入れたら誰が持っていくんですか」、「誰が持って行くって、あなた方かごがいっぱいになれば、市の環境生活課の車が来て積んでいけばそれで話は済むんじゃないか」と言ったら、「そうはいかない。観光課でやった仕事は観光課で責任を負わないと……」、そうすると随分これはむだなことなんです。

それで、また衛生車がわざわざ遠回りしてそこを通るんでなくして、次のごみ処理場所の通り道だから入れて行ってくればいいんですが、それも何かそれぞれ各課の所管の違いで実現しないというハンディがございます。この点は、やはり行政改革の問題の一環として、観光でごみをそこに集めたら環境生活課でそれを積んで行くということになれば市民のサービスになるんじゃないかという単純な考えですが、この点についてお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、パンザマストによる火災報道の利用はできないものか、これは先ほど永井君がここで質問いたしましたが、市の方としてそれぞれの答弁をしております。しかし、火災なんかの所管は広域市町村の常備消防の方で行っておりまして、私がここで言いたいことは、今パンザマストは館山市の風物詩の一つになりつつあります。5時になるときれいな音楽を流していただきまして、市民の憩いとか大きな成果を上げておりますが、やはりパンザマストは防災の最たるものをいち早く市民に知らせる。結局、それが年中防災がないから、試験的に、維持するためにそれを流しているというのはわかります。

しかしながら、一般の市民は音楽を流してくれるんだから、夜火事があったという場合に何とかパンザマストでどこどこで火事ですよと言えないかということ。それは一応所管も違いますし、いろいろ問題もございますが、市で火災をすぐ知らせるということになれば24時間体制をとらなければならぬというハンディもございます。予算もございますが、市民は災害を知る権利があるということで、何とか報道できないかということでございます。

それから、海水浴シーズン前の海水検査についてですが、一昨年は非常に悪いということで、ワースト上位の方でテレビとか新聞等によって日本全国に報道されてしまったというハンディがございます。去年はきれいな海だ、ことしになったら大腸菌が非常に多くて館山市は汚ない海のワースト第1位の近くにあるというようなことだったんですが、今年は汐入川のしゅんせつ等も非常に市の骨折りによって県等の予算を使ってしゅんせつができたんです。ところが、この調査はしゅんせつ後にやってもらえばある程度大腸菌は違ったとおもいますが、しゅんせつ前に

行われたものであるし、また館山湾の特徴は少し風が吹けば海が浅いために非常に海が汚くなって、黄色くなって濁ってしまって、そこでやられたら大腸菌が悪いということになるんで、事前に保健所と市との連携をとって、なるべく澄んだ、いいときに何とかしてもらえないかということでございます。

それから、学校衛生改善と車による夜間の集団夜遊びについてですが、学校の衛生改善は、市長さんの働きとかいろいろ執行部の努力によりまして、防衛庁予算等使ってほとんど近代化ができたわけでございます。しかしながら、いまだにくみ取りの便所のある学校が何カ所あるわけでございます。これは生徒の衛生というものを考えまして、少しでも早くそういったものを水洗便所にするとかという考えはないかどうか。

それから、今年の夏は、暴走族ではないんですが、夏の暑い盛りであるし、若者にとっては太陽の季節でございますが、夜、夜中までも車を乗り回して、それで近所から騒音の非難があったわけでございます。夏が解消すると同時にこの問題も解消するんじゃないかと思いますが、一応警察でもただ車を夜遅く乗ったということで取り締まりできないという現状でございますので、この点を何とかならないかということで質問でございます。

私は、ここに上がりまして、私の個人の考えですが、通告質問をやるのと市を痛めつける、そういうふうに執行部がもたれるのではなくて、一応議会と市とはお互いにこういう場所ではめったに話し合う機会がないんだから、我々が出した問題を気持ちよく受け取って、その問題についてお互いに館山市の将来のためを考えまして、こうしよう、ああしようという場所にしたい。そうでないと、我々が通告質問出しますと、市の方としては防御に非常に熱心になってしまって、何かわけのわからない回答が返ってくるという状態でございますので、その点をお含みの上よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 流山議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点のうちの小さな1点、文化会館についてでございますが、本年の3月市議会におきまして、館山市における文化ホール建設に関す

る陳情が採択されましたので、知事にお会いをいたしまして、南房総地域半島振興計画に掲げられております文化ホールを本市に建設してほしい旨の陳情をいたしました。

本市が要望しております文化ホールでございますが、用地はコミュニティセンターと駐車場との間にございます広場、面積約8300㎡を提示してございます。

半島振興計画で要望いたしました文化ホールの概要は、大ホール、小ホールのほか、リハーサル室、楽屋、会議室など、延べ面積7400㎡でございます。

御案内のとおり、半島振興計画では、半島振興地域内に文化ホールを建設することは明記されておりますが、場所や時期は未定とされておりますので、今後も要望を重ね、実現に努力していきたいと考えております。

次に、第2点、海上輸送による対策はあるかとの御質問でございますが、総合的な海洋性リゾートタウン計画を推進しております本市にとりましては、交通の利便性を確保することは重要な課題でございます。このため東京湾横断道路をはじめとする陸上交通の早期整備を目指すとともに、多様化する国民的ニーズに対応した新たな海上交通の開発を現在検討しているところでございます。

次に、第3点、多くの人々のアイデアを求める考えはないかという御質問でございますが、市の行政全般にわたりまして市民とともに考え、参加を得ながら地域の振興策や種々の運動を展開しようとすることは基本的な姿勢でございます。

まず、市議会、各種審議会がございますし、各種団体等と話し合う機会もございます。一般的に市民の要望や相談等につきましては、市民相談室や各担当課を通じて対応しておりますし、広報誌にも意見投稿のコーナーを設けているわけでございます。

さらに、具体的課題につきましては、関連する地域住民、産業団体等と意見交換に努めておりますが、今後もこのような考え方で市民参加の行政を進めてまいり所存でございます。

次に、大きな第2点、西口開発と裁判についてでございますが、館山

駅西口地区土地区画整理事業予定区域内の館山市北条字南浜小松253番地の土地につきましては、過日の全員協議会におきまして御説明申し上げましたように、去る8月11日千葉地方裁判所館山支部の判決で館山市開発公社の全面勝訴となりましたが、その後8月26日に原告から東京高等裁判所に控訴されましたので、今後も引き続き審理が続行されることとなると思われます。

その場合、当該土地に係争中であることから、区画整理事業に支障があるのではないかという御懸念でございますが、区画整理事業につきましては、本件土地の所有権はあくまでも館山市開発公社にあるわけでございますので、館山市開発公社の宅地として、他の権利者の宅地と同様に換地を確保しておけば訴訟とは別に事業を進められるわけでございます。

また、仮に換地設計前に裁判が終結し、館山市開発公社が勝訴した場合は、減歩率緩和等のための土地として使い、仮に敗訴した場合は控訴人所有の土地として他の権利者と同様に換地設計を行うこととなります。

次に、大きな第3点、市民サービスでございますが、まず第1点、市民課の窓口でございますが、日常受付係8名のうち受付担当4名、作成担当4名で対応しており、ピーク時におきましては待ち時間短縮のため他係の応援体制を確立いたしまして処理しているところでございますが、今後一層お客さまの不満が生じないよう努めてまいりたいと存じます。

次に、市民課待合室につきましては、既存スペース内での環境改善について、従来より取り組んできているところでございますが、特に混雑時におきましては玄関ロビーの一部にイスを増設する等、臨時の待合室を設置し対応してまいったわけですが、さらに工夫、検討をいたしまして住民サービスの向上に努力してまいります。

次に、小さな第2点、里道及びハンディ道路の整備についてという御質問でございますが、里道の整備につきましては昭和61年8月に生活道路整備調査を実施し、町内会等の要望を受け、緊急度の高いところから計画的に原材料を交付し、関係者の御協力により整備を進めております。私道につきましては、現在整備方針について検討をしているところでございます。

次に、小さな第3点、海岸清掃（美化）、観光と衛生の連携についてでございますが、夏季のごみ収集につきましては必要な箇所には臨時収集所を設け、一部業者委託により実施をいたしております。通常のごみ収集につきましては従来から世帯数、排出量、収集場所間の距離等を勘案し、実施しておりますが、今後とも地域の実態を踏まえ町内会長等と連絡をとりながら対処してまいります。

次に、小さな第4点、パンザマストによる火災報道の利用はできないかという御質問でございますが、防災行政無線の屋外拡声子局、いわゆるパンザマストは、災害の発生が予想される場合、または発災後における情報伝達を迅速に行う必要から設置したものでありまして、屋外拡声子局により放送される場合、市が何か防災上重要かつ緊急を要する情報を流していると耳を傾ける習慣が大切だと考えております。したがって、通常における火災につきましては放送はいたしません、強風下の延焼または飛び火警戒の必要のある場合は、状況に応じて対処してまいりたいと思います。

次に、大きな第4点、海水浴シーズン前の海水検査についてでございますが、海水検査につきましては国の海水浴場水質保全対策要綱及び県の海水浴場水質保全対策要領に基づきまして、館山保健所が管内の日程を定め、その日程により実施をしているところでございます。

検査日前及び検査当日の大雨、強風等により極めて海の状況が悪い場合には検査日の変更をし、実施しているのが現状でございます。

次に、大きな第5点でございますが、この前段につきましては教育長から御答弁を申し上げます。

後段の車による夜間の集団夜遊びの件についてでございますが、次代を担う青少年が健全で健やかに成長していくことは市民全体の願いでございます。青少年の健全な育成は家庭が基本であり、これに学校、地域が連携して推進することが最も望ましいものと考えております。

御指摘の夜間の集団夜遊びにつきましては、今後、館山警察署、防犯協力会、青少年相談員等関係機関及び関係団体の連携を密にいたしまして、非行化防止に一層の努力をしてまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) 大きな5の前半の分につきましてお答えをいたします。

学校の衛生改善でございますが、小中学校の校舎便所につきましては、現在、小学校1、中学校1が水洗便所未設置校となっております。今後、この問題を解決すべく、前向きの姿勢でもって検討いたしております。

以上でございます。

○23番(流山源次郎君) 市長さんから非常に細かく分けまして御答弁いただきました。

私といたしましては、その答弁ということで、非常に満足はしているわけでございますが、せっかく通告質問で——先ほど私は、一応通告の場所は市と議員とコミュニケーションの場所にしたいということで、時間の許す限りコミュニケーションの場所にしたいと思っております。

私といたしましては、何か重箱の隅をほじくるようなことで、市に対して注文をつけるということではなくして、自分がこう思っているということで市の方からそれに対して答弁なり、答弁ができなければいいです、それを受けたいと思っております。

これだけは答弁いただきたいことは、今、文化会館の問題で、市長さんの答弁の中には現在コミュニティセンターの前の広場、あそこに文化会館の建設の件が報告されましたが、実は私、ある件に関係している議員の方から聞いた話では、これはたしか新聞に載ったと思っておりますが、半島振興法によるところの文化会館は南高の中に設置されるんだという話を聞いたんですが、今、市の方からコミュニティセンターの場所にこの文化会館ができるという話でございましたが、どちらが本当なのかどうか、これについてお聞かせ願いたいと思っております。

○市長公室長(錦織 茂君) お答え申し上げます。

南高校の文化施設建設につきましては半島振興法と別でございまして、千葉県が特色ある学校づくり推進事業といたしまして南高校に文化施設を62年度に設計、63年度完成する旨伺っております。施設は1600㎡で500席を予定しているようでございます。

この施設につきましては、学校教育を主眼にしております。社会教育

の開放にも重視をしたいということでございますが、あくまでも学校教育を主眼ということでございますので、期待はあまり持てないんじゃないか、このように考えております。

以上でございます。

◎ 23番（流山源次郎君） 文化会館の問題は、先ほどもちょっと話をいたしました、数年前に特別委員会を結成いたしまして、その委員会の結論といたしましては文化会館を建設することは決して反対ではないということでございますが、ただ、現在市民センターがあり、コミュニティセンターがあって、館山市の財政事情等考えて慎重に取り扱っていたきたいというのが特別委員会の結論だったと思います。また、市の執行部に申し入れた問題だと思えます。

この文化会館でございますが、今度半島振興法によって、予算措置の裏づけ等もある程度は県なり国なりからのものはつくと思います。今までは文化会館をつくるということになれば、ある程度市が全面的にそれを補わなければいかぬ問題でございましたが、そういうこの際予算がついたということで、私は建てるんならよその市にまけない、とにかく館山市にしかないというような文化会館、その予算がついておりますので、そういったものは立派なものを完成していただきたい。ちゃちなものをつくらせて何か中途半端なことにならないように、館山市が立派なものをつくるということは、一つにはよそから館山に集中するという大きなものがございまして、この点を特に要望したいと思います。

それで、私、あまり質問で答弁を得るということは嫌いでございますので……。ただ一言、先ほどの市民課の窓口について、非常に能率のよいパソコン等の取り扱いによって事務が進んでいることは感謝しますが、先日、朝日新聞等によりますと、このパソコンを扱う——これは市役所じゃなくて会社なんかの例でございまして、そこに1日に制限して何時間、それを1週間続けた場合に女の子は流産をする率が統計によって違ってくるということで、長時間パソコンを叩いておると流産の可能性が高いということをして、8月の初旬の朝日新聞で見たわけですが、健康管理についてはどのようなお考えでございましてか。

◎ 民生部長（渡辺 弘君） ただいま御質問のございました職員の健康

管理の面でございますが、確かに御指摘のように私も朝日新聞に掲載されましたOA機器を取り扱う女子についてそのような例があるということは承知しておりますけれども、市といたしましても常時市民課窓口を設置してございますOA機器に座りっぱなしということはございませんで、受付係8名おりますけれども、それを適宜流動的に回転をさして行っている関係から、その健康問題につきましてまだ深刻には考えておりません。

以上でございます。

○23番（流山源次郎君） 質問しない、質問しないといって……。もう1点だけお聞かせ願いたいんですが、実は、それぞれの議員さんが今までいろいろ問題出しまして、ヘリポート問題とかが出ましたが、市の方としては今度国の方から指示がございました小型輸送機の交通網に対する問題が出てきて、それに対して市では何かそれに取り組んでおるというような話を聞いておりますが、その結果はどうなったかどうかこの1点だけお聞かせ願いたいと思います。

——私が突飛に今出したんで、ちょっと困ると思うんです。これは後日連絡していただければいいと思います。

次に、これは時間のくるまでお約束どおり要望と私が調べた問題等をここで報告したいと思います。これについて、部長さんで私よりもっと博学の人がいっぱいいると思いますから、その問題こうだという発言があれば私は黙っておきます。また、なければそれでいいんですが……。最後にこの問題が終わりましたら、市長さんから市長さんの決意なりを伺わしていただければ幸せと思います。

先日、観光協会の主催によりまして、元熊本県の永田市長さんの講演がございました。このときには観光ということで市の職員の方が何人かはそこに講演を聞いていらっしゃると思いますが、おそらく市の方がいらっしゃるんで市長さんなり、市の執行部の上部の方にはこの話はいっていると思いますが、この話を聞きますと、我々普通に考えまして市の予算、3割自治体、3割の問題でございますが、この市長さんは20年間人吉市の市長さんをやっておりまして、20年間の間に3000億の予算を国から引き出した。それで学校問題にしろ、あらゆる問題にし

ろ約1割ぐらいの市の負担で3000億の引き出したという、我々の常識では考えられないような講演があったわけですが、しかし実際当人が参りまして、あの席上でお話になるとなるほどなということでございますが、これは館山市としては工場もないし、自分の金もない、ただあるものは市民税の値上げとかということで、少しばかり市民の税金がふえたぐらいのもので何も予算がないんですが、今、その人は市長をやめたそうでございます、要望があればどこへでも飛んでいくという話を聞いておりますが、私はあえて自分のところの市長さんがその人より下だということは絶対自分の面子として言い切れませんが、市の執行部といたしましてその市長さんを何かの研究会に呼んでいただいて、そういった予算の引き出し、そういったものを参考にしたらいいじゃないか。これは別に回答要りません。回答があればいただきたいと思えます。

次に、先ほどお話ありました、大事な問題ですから皆さんの要望を受け入れるお考えはないかということでございましたが、これは時効にかかっておりまして、前市長の時代でございますし、またその当時の責任者もほとんど退職しておると思いますので、私、それにからんでここで申し上げたい。

ちょうど昭和48年に千葉県で若潮国体があったときに、前の市長さんは非常にアイデア市長ということで全国に名前の鳴り響いた市長さんでございましたが、市の方として何かこの際にアイデアはないか、国体を通じての市民のアイデアはないかということを出したんで、私もその当時は議員になりたてのほやほやでございましたので、ちょうどそのときに運よく里見八犬伝の人形劇がNHKテレビを通じて日本全国に流されていたわけでございます。ものすごい人気でございました。私、それにヒントを得まして、とにかく柔道、剣道、ヨット、この3種目を主催する館山市は日本全国から数々の人が集中するんだ、ですから館山の入り口に里見八犬伝の人形劇の看板を立てて里見の宣伝をしたらどうかということをアイデアを出せといったから投書したわけです。

ところが、そのアイデアなるものは市の回答がていねいに参りました。その回答には、流山さんがせっかくいい案をつくってくれましたが、実

は城をつくる問題でいろいろ調査をしておる、まして里見八大伝は史実にはないんだ、あれは滝沢馬琴がつくったものであるから、そういうことを取り上げるとうるさい人がまた文句を言ってくるから、申しわけないけれどもこの問題はそういうわけで取り下げますという、わざわざいいない手紙が来たんです。

ところが、その口の濁かないうちに富山町で駅前に里見八大伝の発祥の地ということで犬飼現八とか、いろんな里見八大伝の名前を書いたのが駅前に張られたんです。ところが、それを張ったとたんに館山市は、私に断りの手紙をよこした口の濁かないうちに、発祥地は館山だということでロータリーに里見八大伝発祥の地ということ、私には史実になりものをそこにやったらうるさい人に文句を言われるからということで断って、その口の濁かないうちにそういうことをするということはちょっと考えられないことでございます。

だから、リゾート法問題とか半島振興法、大事なこういう問題だったら、市の職員、市の執行部は非常に頭のいい優秀な方で我々足元にも及ばない方でございますが、やはり館山市の生きるか生きないか、活性の問題については非常に市民の中には優秀な方がたくさんおります。ですから、そういうアイデアを持ったらどうかということで質問したわけでございます。

それから、最後に申し上げたいことは、水質検査にからみまして、また観光等の問題等もございしますが、実は、今、東京の大井に参りますと日本一設備のいい大型な下水処理場がございします。私、非常に調査して驚いたことは、その処理場から毎日船で勝浦沖100㌧、2000klの終末処理して悪臭を抜いて殺菌をしたという後の、灰よりもまだ軽いものを2000kl、勝浦沖から100㌧の海上に投棄されておる事実でございます。これは皆さん、100㌧、2000klといってもちょっとわからないかも知れませんが、現在、市なりまた山中清掃社で使っているバキュームカーが満タンにして大体1.8㌧です。そうすると1000klというと1000台分のそういった公害物質といいますか、殺菌をして悪臭を抜いたというものの灰よりも軽い物質を毎日、毎日船で投棄しているわけです。

ところが、100キロというとは相当遠いようなわけでございますが、現在の漁船におきましては13ノットというとはむしろ遅いくらいですが、13ノットの計算でやりますと4時間で投棄場所に勝浦沖から走って参ります。ところが、皆さん考えていただきたいことは、勝浦沖に投棄されたものが、我々の常識では100キロも向こうにいったから太平洋に流れてなくなってしまうだろうと思うんですが、今、船で流し漁法というのがございます、これは網の流しでなくてサバとか、アジを釣る漁法がございまして、それは海の潮の流れを利用して、海の中に布をやって、エンジンでなく潮の流れで魚を釣る漁法がございまして。勝浦沖からちょうど廃棄物を投棄するトラック2000台分を投棄する海上に大体操業しているんです。そこから潮の流れで参りますと、ちょうど夜が明けるときには勝浦の港のすぐ近くに船が来てしまうんです。そう考えると、海水であって、ましてそういった投棄物は軽くなっているんですから、そういうのが潮に流れて結局来るのは房州じゃないか。

リゾートとか言っても、東京で邪魔ものになったものを100キロの海上に捨てて、それは房州館山を中心にして鴨川、小湊、房州の人に海からの非常に大きなおみやげができてしまうわけでございまして、この点は今後市長さん等は、対外的に日本全国出る機会があると思いますから、殺菌をした、それから悪臭を抜いた、それは薬ですから、当然何かからんでおる。それから、それは肥やしなり下水を通しての終末処理、大井でできた最後のものですから、大丈夫なものだったらなにも海に捨てなくてもおかで、東京湾の埋立地がございまして、そこに捨てればいいんですよ。それを何で海上に捨てるかということになると、東京都の残灰を我々安房がこれからリゾートとして注目とされている中で受けなければならぬという結果になりますので、この点につきましてどういうお考えか。これは部課長さんがあったらお答えいただけますが、なければ市長さんに締めくくりといたしまして所見をお聞かせ願ひまして、私の質問はこれで終わりたいと思います。

○市長（半澤良一君） ただいまの話、初めて伺ひまして、実態がよくわかりませんので、今後十分調べまして考えをまとめたいと思います。

○議長（飯田義男君） 以上で23番議員流山源次郎君の質問を終わり

ます。

暫時休憩いたします。

午後 2 時 4 5 分 休憩

午後 3 時 0 6 分 再開

○議長（飯田義男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、3 番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3 番議員田沢勝信君登壇）

○3 番（田沢勝信君） 私は、すでに通告してございます 4 点にわたり、順次に御質問を申し上げます。

第 1 点目は、保育行政の課題についてでございます。

共稼ぎの家庭にとっても、婦人の社会参加を保障し続けていくためにも、子供の健やかな成長という点からも、保育行政は欠くことができないばかりでなく、そのあり方もまた現状に沿った内容が求められているという点については、他の施策同様のことでございます。

ここ数年来、保育所入所者の動向を見てみますと、入所定員割れの傾向にあります。その原因についてどのように把握されておりますか。また、今後の対策はどのようにお考えになっているのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、中央保育園についてでございますが、中央保育園は定数 100 名、3 歳までの乳幼児の入所を認め、4、5 歳児の入所は原則として認めておりませんでした。この入所年齢の見直しをぜひ検討いただきたいと思うわけでございますが、その理由を申し上げますので、早急に対策を立てていただきたいと思います。

第 1 の理由は、入所年齢決定にあたっては、子供の立場に立った決定を最優先すべきではないのかという点でございます。3 歳までの入所でやっとでき上がりつつある子供同士の間関係を断ち切るような 4 歳からは別の保育所へということよりも、引き続き同じ保育園で保育されることの方が保育所、子供にとっても望ましいと考えるからでございます。

第 2 の理由は、働きながら子供を育てていくその現状をぜひ理解の上、入所年齢を決定してよいのではないのかという点でございます。朝、子供を保育園に預かっていただける時間、家から保育所までの要する時間、

そして勤務する場所までの時間からいって、親にとって保育所選択幅は決して広くありませんし、よく働く婦人からは子供の送り迎えの時間帯は戦争のような忙しさという声をよく聞きます。中央保育園の4歳、5歳児入所を要望する声を聞いておりますと、やはり最も近く、利用に便利なのだという点が圧倒的に多いことがわかります。

第3の理由は、中央保育園はここ数年来、入所定員に対して約6割弱の入所ということからいっても、少なくとも3歳からの持ち上がり入所は可能ではないかという点であります。

以上、中央保育園の入所年齢見直しの必要性について申し上げたわけですが、市長の御所見をお聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点目として障害児、障害者に対する諸施策についてお伺いしたいと思います。

期せずして、不幸にしてハンディキャップを背負う心身障害者もまた一人の人間として人格が尊重され、その成長も等しく保障されなければならないことは申し上げるまでもございません。当市でもその施策が進められてきたわけですが、より一層の充実を要望する立場からお尋ねしたいと思います。

まず、精神薄弱者のための施設であります福祉作業所における職業生活訓練等の成果と課題、今後の施策はどのように考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、当地区には広域的に見ても身体障害児の機能訓練施設がなく、しかも全県的には施設の統合がなされ、現在では遠くまで機能訓練に通わなければならないというこれまでの経緯があり、その応急対策として簡易マザーズホームの事業、あるいはおもちゃの図書館事業が行われ、市民からも大変喜ばれているわけですが、その施策の成果と課題、今後の施策はどのように考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、第3点目として、産業廃棄物処理場建設に関してお伺いしたいと思います。

県内で産業廃棄物による公害が随所に出ていることが報道されております。つい先立っても長柄町での産業廃棄物の不法投棄による県水道の

水源汚染の問題が大きく取り上げられております。不法投棄は厳しく取り締まっていたいただかなければならないことは申し上げるまでもございませんが、その背景については経済活動に伴って増大し続ける産業廃棄物に対し、その処理場確保が極めて困難になり、かつ遠隔地化している点が共通して指摘されているところでございます。

他方、産業廃棄物処理場建設に対しては、その持つ性格上、法的にも行政としても厳しい対処が問われているかと思えます。最近、鴨川市に産業廃棄物処理場建設を計画した業者が事前協議の段階で市から強く反対されていることも報道されたばかりでございます。

さて、この6月に開催されました文教民生委員会で、当館山市でも民間業者による産業廃棄物処理場建設計画の事前協議が進められていることが明らかにされました。そこで、この件に関して質問をしたいと思えます。まず、協議の進められている処理場の場所、規模、処理内容はどのようなものなのか御説明を願います。

次に、これまで特に建築廃材の処分は土地還元に集中し、かつ一旦、不適切な処分がなされると潜在化しつつ、長期的に極めて大きな環境阻害を生起するということになるという点から、内陸部での設置を避けております。今回、事前協議がされている処分場は内陸部に位置しておりますが、この内陸部への産業廃棄物処理場建設について市長の基本的な考えをお聞かせ願います。

次に、市の対応策はどのようなものなのか明らかにしていただきたいと思えます。特に、事前協議段階で県より意見を求められたと聞いておりますが、その市の意見を中心に対応策についてお聞かせ願いたいと思えます。

次に、最後の4点目、館山駅西口地区土地区画整理事業についてお尋ねしたいと思います。

さきの6月議会でも取り上げ質問いたしました。計画区域内の地権者、借地権者から具体的個別の減歩、移動場所、換地面積、それらに伴う精算金等の不安が出ているが、どうなるのかという質問に対して、市側の答弁は「計画について地権者、借地権者、借家権者のおおむね賛同をいただいている。今後、土地買収を進め、減歩率20%の見通しがつ

いた段階で土地区画整理審議会の委員を選出していただき、そこで具体的個別地権者の減歩面積、移動場所、換地に伴う精算金額の決定をしていただくことになる。現状では減歩率29%ということになり、市有地確保を進め、減歩率20%の見通しをつけることが最大の課題」という趣旨の答弁であったと記憶しております。

答弁を聞いて、私の受けた印象は、率直に申し上げて、1つには減歩率緩和のための必要な市有地を確保するということが最大の課題だという点については、文字どおりきちっと約束どおり実行してほしいということであります。2つには、最も優先して理解をいただかなければならない地権者、借地権者から出ている不安について、減歩率20%の見通しがついた段階で、つまり計画実施の段階で土地区画整理審議会で具体的個別地権者等の減歩、移動場所、換地面積、それに伴う精算金額を決定してもらう、ということでは確かに事業実施にあたっての最終決定の手続きはそうなるわけでございますけれども、市民の不安に対処したことにはならないという点であります。具体的土地利用のあり方はどうするのか、ふさわしい土地区画のあり方、宅地移動に伴う技術的な制約、減歩率平均20%等のこれまでの調査研究の上で地権者、借地権者に対し計画の理解を求めているわけでございますから、出されている不安に対しては可能な限り対処していただきたいと思います。

そこで、今回は具体的な質問を申し上げます。第1に減歩率緩和のための市有地の確保の現状と今後の見通しはどうか御説明願いたいと思います。

第2に、計画区域内に市有地の借地権者が数名いるわけでございますが、市の事業構想ではそれらの方々の移動場所、土地区画整理面積はどのようにこれまで想定してきたのか。また、本事業が実施された場合、市は地代等はどのように想定しているのか、お聞かせ願いたいと思います。

第3に、北条市営住宅の入居者に関してであります。本事業の実施に伴い別の市営住宅へ転居ということも想定されますが、その際の転居費用負担はどうなるのかお聞かせ願います。

以上、4点にわたり御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再

質問をいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 田沢議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点は、保育行政の課題についてでございます。

その小さな第1点、定員割れの原因、今後の対策という御質問でございますが、定員割れの大きな原因は出生率の低下による児童数の減少にあると思っておりますが、そのほか公私立保育所の充足率の差は、私立保育所5園のうち3園が館山、北条という人口集中地区にあるという立地条件的な差によるものではないかと考えております。

今後の対策といたしましては、児童数が増加しない限り措置児童数に見合った数に定員の見直しをしてまいりたいと考えております。

中央保育園での4、5歳児の入所の問題でございますが、中央保育園の建設にあたっての考え方は、2歳未満児50名、2歳以上3歳未満児50名の計100名定員ということでございまして、園舎、遊具等の施設、設備及び園庭もそれに見合ったものになっているわけでございます。その後、保護者の要望により3歳児まで受け入れることになりましたが、さらに4、5歳児を受け入れるには、現在の園舎、園庭では狭く、仮に受け入れた場合、4、5歳児の運動量から危険性も出てくるなど、低年齢児への影響が大でありますので、4、5歳児の入所については考えておりません。

次に、大きな第2点、障害児あるいは障害者施設の課題についてでございます。

第1点は、福祉作業所の問題でございますが、福祉作業所では在宅の心身障害者で雇用されることが困難な者に対しまして、社会生活における適用性を高めるよう指導を行い、その自立助長を図ることを目的として設置されたものでございますが、日常の業務を通じて一応の成果を上げているものと考えております。

今後の課題と対策でございますが、現在、作業内容はマジックペンの組み立てと七宝焼の2種類でございますが、主たる作業でございますマジックペンの組み立てが円高の影響を受けまして受注量が減ってきておりますので、新しい仕事の開拓を図ってまいらなければならないと考え

ております。

次に、第2点、心身障害児に対する施策としての簡易マザーズホーム及びおもちゃ図書館の成果ということでございますが、早期養育の場として指導を受けたため、放置しておけば脳性麻痺へと進行のおそれのある子供が幼稚園での集団生活に参加できるようになりました。これは4名でございます。

重度及び重複障害の子供にとって、障害の軽減と一人の人間としての全体的な発達を促し、社会参加の基礎づくりの場となっていると考えております。また、さらに保護者同士の励ましあいの場となっておりまして、子供の障害の正しい理解と養育姿勢を学んでいると思います。また、子供たちにとって何よりも楽しみの場であり、ボランティア、保護者と一緒に、あるいは一人で心ゆくまで気にいった玩具で遊び、この集中力が日ごろの療育指導の基礎になっていると思います。これらいろいろな例を挙げる事ができると思います。

今後の課題と対策ということでございますが、何といっても早期に療育を受けるということが重要でございますので、市保健課、保健所、児童相談所、産院、千葉リハビリテーションセンター等、関係機関との連携を密にいたしまして、漏れなく早期療育が受けられるよう努力してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3点、産業廃棄物処理場建設に関する御質問でございます。

小さな第1点、昭和60年11月21日館山建材株式会社より県に提出されました事前協議書によりますと、建設予定地は館山市西長田字竹野山912番地外13筆、地目は山林で、処分場の面積は3万366㎡でございます。埋立地の容量は29万9966㎡、59万2500㎡で、埋め立て予定期間は6年間の安定型最終処分場となっております。処理廃棄物は建設廃材、廃プラスチック類、ガラスくず、金属くず、覆土でございます。

第2点、産業廃棄物につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第10条により、事業者がみずからの責任において適正に処理しなければならないと定められております。最終処分場の建設につきましては

その立地条件、用地取得、周辺住民の同意などクリアすべき諸条件がございますが、生活環境整備や地域産業の振興の面からも必要な施設であると考えております。

なお、事前協議が進められております産業廃棄物最終処分場の設置について県から照会がございましたので、意見書を提出してございます。その内容といたしましては、1、隣接土地所有者及び関係住民等に事業内容を説明し同意を得ること、2、観測井戸の検査と合わせて下流の農業用水についても有害物質等の分析検査を実施すること、3、埋め立てを開始する前に周辺民家2カ所以上の井戸水の水質検査を実施すること、4、森林法による林地開発の許可を得ること、5、文化財保護法の申請を行うこと、6、公共用財産に関する諸手続きについて遺漏のないようにすること、7、交通安全対策には万全を期すること、8、運搬車両の運行及び埋立作業により騒音、振動、ごみの飛散等の被害が発生しないように作業すること、9、立入検査については市と独自に覚書を取り交わすこと、10、埋立完了後の維持管理には万全を期すること、11、その他関係法令を遵守すること、以上でございます。

次に、大きな第4点、西口地区土地区画整理事業に関してでございます。

第1点の、減歩率緩和のための市有地確保の現状と今後の見通しにつきましては、従来から減歩率緩和等のため用地の先行取得を行ってきたところでございますが、現在の取得地として館山市6件、2976㎡、館山市開発公社に依頼し取得した分2685㎡と現市有地1581㎡、計7242㎡を確保しております。

今後とも地区内権利者の御理解を得まして、事業の進捗を図る観点から、平均減歩率を20%まで緩和し、またそのほか過少宅地対策、換地設計技術上必要な分等を考慮いたしまして、あわせて約3000㎡を確保してまいりたいと考えております。

また、見通しでございますが、現在、数人の方と売買交渉中でございます。今後とも積極的に話し合いを継続してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点、市有地借用者の移転に関してでございますが、

当事業予定区域内にある市有地につきましては、現在23世帯の方たちが市から借地し、住んでおられますが、具体的な移転先、すなわち換地先は、市が区画整理事業に必要な土地の先行取得が終わり、かつ事業認可後に行われる換地設計の中で明らかになるわけでございます。この場合、換地先は、土地区画整理法に基づき、事業予定区域内の他の権利者と同様に、現在住んでいる場所の近くに換地されることが原則になっております。

また、これらの宅地は50坪前後で、宅地いっばいに建物が建てられておりますことから、一律に減歩すると建物が換地の中に収まらなくなる場合もあるわけでございますが、今後、換地設計を行う段階で具体的な基準を設け、過少宅地については減歩を緩和するなどの対策を考えてまいりたいと思います。

次に、区画整理後、これら市有地の地代の値上げがあるかということでございますが、普通財産に係る地代の更新につきましては、現在、スライド方式を採用しておりますが、これは従前の地代にその後の経済事情等の変動割合を勘案して算出するものでございまして、全市同一の割合となっております。したがって、御質問の土地については、土地区画整理事業を実施することが地代に結びつくというものではございません。

なお、地代のうち、公租公課相当に係る分については、土地評価の変動により反映されることとなります。

小さな第3点、北条市営住宅入居者の移転についてでございますが、北条市営住宅の取り壊しにおける最終入居者に対しましては、通常必要な移転料はお支払いすることにしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○3番（田沢勝信君） 答弁で了解する件もありますけれども、何点か再質問をいたしたいというふうに思います。

まず、最初の保育の行政についてでございますが、特に中央保育園の入所の年齢の問題でございますけれども、先ほどの市長の答弁によりますと、当初の設立目的が2歳未満を50名、2歳が50名ということで設立したんだ、それで今回、4、5歳児を入れるについては園庭の広さあるいは部屋の狭さがあるんで既存の入所者に迷惑がかかるかもしれな

いということなのですが、私が思いますのは、今現在でも約6割の入所しかないわけです。これは統計を見てみますと、ここ5、6年同じような状態になっているわけです。少なくとも条例上見ますと、例えば2歳児あるいは乳幼児を入れてあったとしても人数から言えば40人分スペースがあるわけです。私は、民間の保育園を見た場合に、決して民間に劣るような広さではない、部屋の狭さではないというふうに思います。しかも、定数関係からいけば40名分の定員割れがあるわけです。

そのことを想定してお尋ねしたいんですが、まず父兄の皆さんの苦勞を知っていただくためにお答え願いたいんですが、中央保育園に3歳まで預けます、3歳以後どこに行っているのか、そういうような追跡調査がございますか。私が聞いた範囲で申し上げますと、やはり3歳で退所して、ある方は無理やり幼稚園に預けて、そして幼稚園が終わった段階で別の親戚の方に頼んで見てもらう、そういう苦勞もあるんです。あるいはせっかく保育園の近くに住んでいるのにわざわざ遠くの保育園に——これは私立じゃないですよ、館山市立です——そういう保育園に移さなければいけない、こういう実情があるんです。そういうことを踏まえまして、市の方が中央保育園を終わった後、子供さん方がどこに行っているのか、追跡調査があれば御説明を願いたいというふうに思います。

○民生部長（渡辺 弘君） 61年度の3月末で中央保育園の3歳児が28名退園いたしておりますが、そのうち退所——これは多分、推測でございすけれども、幼稚園への転園ということになるかと思いますが、その児童が12名ございす。他の園への退園者が16名でございす。そのうち私立の保育園——アンデレ保育園に2名、キリスト保育園2名、ユネスコに1名でございす。あとの8名につきましては館野、純真保育園にそれぞれ転園しております。以上でございす。

○3番（田沢勝信君） 今の答えにもあったんですが、できれば4歳、5歳まで中央保育園で預かっていただければ何も館野とか純真保育園に行くことはないと思うんです。私は、確かに設立当時いろんな経過があったようでございすから、市長が言うことをわからないわけではないんですが、あまりに画一的になってはいないかというふうに思うんです。せめて、スペースからいえば40人分あることになるわけですから、漸

次4歳保育まで認めるとか、5歳まで認めるとか、やはりそういう事情を勘案していいんじゃないかというふうに思うんですが、これは市長さんに答えていただきたいというふうに思うんですが……。

○市長（半澤良一君） ただいま御答弁申し上げましたように、設立の趣旨とそれから施設、設備がそれに合わせてできているわけですので、やはり零歳児、1歳児、2歳児、そうした子供たちに対する影響等もあろうかと思いますので、現在はこのままの方針でいきたいと考えております。

○3番（田沢勝信君） 市長さんの考え方はわかりましたが、あまり納得できないんです。先ほど、保育行政全般の中で定員割れがしているんだ、今後の対策どうするんだというふうに伺いましたら、逆に条例上の定員を減らしていくんだ、これじゃあまりにも行政として芸がないんじゃないかというふうに思うんです。

私はここ10年ばかりの児童のデータをとってみました。これを見ますと確かに児童数は減っているんです。この10年間で約2000名から減っているということはわかります。37%ぐらいの減になります。ところが、この保育を要する児童数、ゼロ歳児と5歳児は減ってないんです。これを見ますとわかります。市内のユネスコ保育園、キリスト保育園、アンデレ含めて決して減ってないんです。それで、市が入所定員割れをしているから定数を減らすんだ、中央保育園については設立当時の考え方があったからそれを堅持していくんだ、これではあまりにも現状にあってないんじゃないかというふうに思います。

確かに、私は、私立の保育園を圧迫しちゃいけないというふうに思います。しかし、それを考えるあまりに子供たちを犠牲にしてまで現在の3歳児保育までという考え方はぜひ改めるべきではないかというふうに思うんです。やはり保育行政は子供中心に考えるべきだというふうに私は思います。今の考え方ではあまりに硬直してまして、確かに私立は定員いっぱいです、これを見ますと。私は、私立の保育園のいろんな努力を認めます。その結果ふえているんだろうと思います。ところが、もう少し——市長さんは常々、市政の活性化ということを言いますが、少なくとも中央保育園に関する限りはその考え方がないんじゃないかという

ふうに思います。あまりにも私立のことを考え過ぎるために、子供さんが犠牲になっている、父兄が太変な苦勞をされている、こういうことを再度お考えになってこの年齢の見直しを検討をしてみていただきたいと思うんですが、市長さん最後になりますけれども……。

○市長（半澤良一君） 田沢議員さんおっしゃるように、子供を中心に考えるべきだということは私も基本的に賛成しております。現にこの保育園ができましたときには、3歳児はお預かりしていなかったわけで、3歳未満までだったわけでございますが、その後、園児も減ってまいりましたし、父兄の要望がございましたので3歳児もお預かりすることにしたわけでございます。それはやはり子供を中心に、重点を置いて考えるという考え方でやってきたわけでございますが、4歳児、5歳児となりますとただいま申し上げましたようにいろいろ設備の関係だとか、あるいは子供たちの運動量の関係とか、そういう意味でゼロ歳児あるいは2歳未満、あるいは3歳未満の子供たちに対する影響もあるんじゃないかという、そういうむしろ子供たちの立場に立った考え方で4歳児、5歳児は入れるべきではないというふうに考えているわけでございます。

○3番（田沢勝信君） ぜひ、施設の拡大も含めてこの際検討をしてほしいというように思います。私は長い間船形の保育園に2人の子供が面倒になりましたが、あそこも決して広い園庭ではございませんでした。部屋も言ってみれば中央保育園よりは狭かったんじゃないかというふうに思うんです。そういう中で保母さん方が大変な苦勞をして、実際に園庭が狭いわけですから、それでも乳幼児に迷惑がかからないように、しかも4歳児、5歳児が十分運動できるような創意工夫をしておりました。ぜひそういうふうにやっていただきたいというふうに思います。

それで、第2点目に移りますが、障害者の諸施策についてお伺いしたんですが、福祉作業所が、先般、私ども文教民生委員会でも拝見をさせていただきました。大変な成果も上げられているという話も聞きました。その中で私は非常に印象的であったのが、あの施設に入りましていろんな生活訓練なり、職業訓練なりやりまして、やはり従来家庭の中ではできないと思っていた洗濯とかそういうことまでできるようになるんだ、そういう話も聞いて、やはりこういう施設は発展をさしていかなければ

いけないなというふうにつくづく思いました。

そういう中で、先ほど今後の課題ということで、あそこの中では職業訓練としてマジックペンのペン先をつける仕事をやっているわけですが、なかなか円高の中でその仕事も善意にすぎたってやっているような状態だというお話も聞いたわけです。福祉作業所だけで新たな仕事を見つけるのは大変困難かと思います。私は、ぜひ市の行政としてもこの仕事を何とか確保できるような対策を早急に進めていいんじゃないかというふうに思います。

また、入っている方にすれば、一つのマジックペンのペン先をつける仕事なり——私は、町田市に視察に行ったことがあるんですが、あそこの中には子供に合った作業ということを工夫しようということが随分研究をされておりました。そういうことを含めましてぜひ充実をしてほしいというふうに思います。これは要望しておきたいというふうに思います。

次に、2点目の機能訓練の問題なんですが、先ほど市長さんから答弁があったように、ほうっておけば重度の脳性麻痺になるような方が早期に機能訓練をしてそういうふうにならないで成果を上げている、これは大変喜ばしいんじゃないかというふうに思います。

私が、もう1点だけ要望したいのは、本格的な機能訓練をやる場合は千葉に行かなければなりません。応急措置としてやっているわけですが、それでもなおかつ機能訓練が受けられないでいる子供さんたちがいるという現実なんです。

例えば、館山市には安房養護学校があります。あそこは精薄の方が教育を受ける、そういう施設で、しかもこういう機能訓練を要するような子供さんの場合は重複の場合が多いと思います。安房養護学校の場合は機能訓練を安房養護学校の先生方が直接簡易マザーホームに連れてきて月1回見ていただく、そういう体制がございます。ところが、その他につきましては、確かに身体には不自由がありますけれども、知能の方は普通の小学校に行かざるを得ないという子供さんが何人かおられます。そうしますと、大体この辺では館山小学校が受け入れているというふうに思いますが、親御さんがその子供さんを連れて小学校に行って、1日付

いているわけです。それが終わったあと、それではせっかく喜ばれているような市がやっているような施設に行って機能訓練ができるのか、確かにできないことはないと思いますが、私が先般お会いしまして聞きましたら、その方は日中は小学校に自分の子供を連れて行って一緒にいるそうです。そして、夜は、食べなければいけませんから働きに出るそうです。4時半ごろから仕事に出るという話でした。子供は自分で機能訓練をしたいというふうに決して言いません。ところが、見ておきますと、お母さんは切ないと思うんです。この子に機能訓練を受けさせなければ再び手術をしなければいけない、わかっているんです。ところが自分はなかなかいけない。仕事もある。こういう方が実はまだ機能訓練からも見放されていると思うんです。

私は、ぜひ市の行政が積極的に機能訓練が必要な子供さん——先ほど市長さんも早期に治療しなければいけない、早期訓練が大事だという話もありましたし、いろんな県の施設、そういうことも含めて連携をしてやっていくんだ、そういう話もありましたので、ぜひ小学校のいわゆる特殊学級、そういうところの連携も含めて機能訓練から漏れるようなことがないようにしていただきたいというふうに思うんです。それについてお答え願いたいというふうに思います。

◎民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

心身障害児通所事業につきましては、先ほど市長から御答弁申し上げましたように一応の成果を上げているところでございます。なお、田沢議員さんからお話のございました、また御指摘のございました、現在、通所している以外の子供さんたちにとりましても、各関係機関と連絡をとりながら、御趣旨に沿うような方向で努力してまいりたい、このように考えております。

◎3番（田沢勝信君） ぜひ、その体制を早急にとっていただきたいというふうに思います。

それでは、3番目の産業廃棄物の問題についてお伺いしたいというふうに思います。

先ほどの説明の中で、位置関係はわかりました。ただ、内容についても何点かだけ確認をしておきたいというふうに思います。かなり大

きな施設になりますね。しかも、建築廃材の処理場だということなんです、これは県内全部の地域から搬入が可能なような施設としてつくるのか、あるいはまた館山市内の業者だけで使うような施設なのか、あるいは安房郡含めて全域で使うような施設になってくるのか、その内容を聞かせてほしいというふうに思います。

もう1点は、トンネルを越えて館山建材さんの事業所がありますけれども、あのずっと奥の方に処理場をつくるということになるかと思いますが、搬入路がどこになるのか、大変大きな問題だというふうに思うんですが、搬入路はどこに設定されるのか。

次に、土地が何筆かあるというさっきの回答だったんですが、あそこの処理場を建設しようとしている土地がだれの土地になっているのか、固有名詞じゃなくて結構です、館山建材さんの土地なのかそうじゃないのかということを、名前は結構ですからお聞かせ願いたいというふうに思います。

それと、4点目に、市の方で市内でどのくらいの建築廃材が出ているのか、調査があればお聞かせ願いたいというふうに思います。

○民生部長（渡辺 弘君） お答えいたします。

まず、第1点の発生事業者の所在でございますが、館山建材株式会社からの情報によりますと、安房郡市内が中心でございます。

2点目の搬入路でございますが、大変恐縮なんです、私はその情報を持っておりませんので、取り寄せてお答えをいたしたいと思います。

それから、3番目の土地所有者でございますが、産廃申請人でございます。

それから、4番目の建築廃材の館山市の量でございますが、把握してございません。

○3番（田沢勝信君） 搬入路がわからないということなんです、午前中の質疑の中でも永井さんからありましたが、実は、先ほど説明があった処理場の場所の近くに水源があると思うんです、浄水場もあります。館山市が水源調査をやったときに、巴川の上流の神余川でやったと思うんですが、この調査を見ますと、搬入路がもし現在の館山建材のところから入ることになれば、この水源調査の中では残流域の1という

ところがあるんですが、こういうふうに分けた理由を聞きましたら、ダムをつくって——あそこは調査では32、3万トンのダムだったと思うんですが、当然下から表流水を汲み上げなければいけない、その汲み上げなければならない川に流れてくる流域に実は館山建材さんも入っているんです。そういうところが建築廃材の搬入路になることについてどうかと思うんですが、私は種々問題が起こりはしないか、そういうふうに思うんですが、搬入路がわからないということなんで、ぜひ調べてお答え願いたいというふうに思います。

○民生部長（渡辺 弘君） 搬入路につきましては、現在、土砂の採掘を行っているわけですが、その道路だそうでございます。

○3番（田沢勝信君） そうしますと、水道課長も出席しておられますので……。館山市にはなかなか水源がないわけですが、多分残された水源といえはこの巴川の上流の神余川だと思います。ここにダムを設置して、しかもダムの下の川から汲み上げる必要があるような小さいダムです。その残流区域になっているんです。その中に館山建材さんの事業所そのものがすっぽりと入っていると思うんです。そういうところに、建築廃材の搬入路をつくるということはどうかと思うんです。当然、県の方からも水源を汚染しないようにという、いろんな県の指導要綱見ますとありますね。そういう検討がしてありますか、市の方で。

○水道課長（石井敏夫君） ただいまダム計画との関係で御質問ございましたが、他流域の水を揚水して計画をするということにはまだ決定は至っておりませんし、また現在の所有関係でダムはこの計画のさらに奥地の方になりますし、既存の神余ダムとの関連は若干出るとは思います、その点については土砂等流出させないという、土砂採石のときのいろいろ条項も入っておりますので、直接搬入路そのものになったとしても即影響が出るかどうかということは、埋立地そのものじゃございませんものですから、今後の検討すべき点ではあるかと思いますが……。そのように考えております。

○3番（田沢勝信君） 確かにダムと処理場離れているんですが、距離にして1キロくらいですか、しかし、この搬入路はすぐ近くになるわけです。先ほど私が言ったのは、ダムができた場合、三芳水道もそうでした

が、作名も同じだと思うんですが、濁水とかということになれば、ダムができた下流の川からやはり汲み上げます。2つともやってます。当然、ここにダムができたと想定した場合、そういう汲み上げもあろうかと思うんです。その場合のいわゆる残流——これでいきますと残流区域というふうに書いてますけれども、この区域にすっぽり入ってますということなんです。そういうところに搬入路をつくって、確かに直接処理場じゃないですが、そういうところをしょっちゅう車が通るようなことでどうなのか。つくるのであれば搬入路は検討していただいた方がいいんじゃないだろうか、その方が安全ではないだろうかというふうに思うんですが、ぜひこれを検討をしていただきたいというふうに思います。

それと、もう一つこの点に関してお尋ねしますけれども、当然、建築廃材を埋め立てるということでございます。昨今、問題になっているアスベストの問題がありますけれども、アスベストを使ったいわゆる石綿のセメント管、こういうのも市内にはあろうかと思うんです。こういうのもやはり建築廃材に入ります。あるいは石綿のタイル、石綿のボード、これもまた建築廃材です。これは全く処理方法がわからないという状況です。そういうのもやはり建築廃材として同じ場所に捨てられるんだということなんです。この辺は市として——もちろんこれは県にやっていただかなければなりませんけれども、市としてこの処理場に関して検討したことがございますか。

○民生部長（渡辺 弘君） この産業廃棄物の処分場の設置につきまして、県から意見を求められたわけでございますが、今お話の出ておりますような意見書を付けて県に提出しておるわけでございます。その段階で石綿の問題等について深くは検討はされなかったのが事実だと思います。以上でございます。

○3番（田沢勝信君） 今、県の方もプロジェクトをつくって、実際に石綿が発覚して、それを撤去してどこに捨てるのか、この検討もしているということなんで、その点も踏まえて今後に禍根がないような施設をするためにもぜひ皆さんが研究されて対処をしてほしいということを要望しまして、私の質問を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で3番議員田沢勝信君の質問を終わります。

次に、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

○11番(神田守隆君)　すでに通告いたしました4点についてお尋ねをいたします。

第1点は、館山市の国民健康保険税は高過ぎると思うがどうかという点についてでございます。

6月の定例市議会の文教民生委員長報告に、館山市国保では年収56万円の標準世帯で国保税は年額3.9万円になるが政府管掌健康保険では同じ収入で試算をすると保険料は18万500円ほどで国保は約2.16倍も高い負担をしているとの説明がございました。

年収に対する国保税の負担は約7%にも及んでおります。しかも、収入の低い人ほどこの負担率が高くなります。市長御自身が加入をなさっております市町村職員共済の医療保険に相当いたします短期共済掛金の負担は年額約18万円ほどではありませんか。市長の年収に対する負担率はわずかに1.5%に過ぎません。市民の国保税の負担がいかに重いか明らかであると思います。市長の感じている点を率直にお聞かせをいただきたいと思います。いかがお考えですか。

第2点は、市内の排水路の整備について市の対策はどうかという点でございます。

市内には排水路が不備なため少しの雨でもたちまち水があふれ出すなどという箇所が各地にございます。市は排水対策として整備を進めておりますが、一方で宅地造成のためにこれまでの排水路がその能力の限界を越えてしまうとか、また排水路が全く整備されていないとかで、かえって浸水などの箇所が新たにふえております。

現在、3000㎡以上の宅地造成については排水路の整備などは宅地等開発指導要綱で指導できますが、3000㎡未満の宅地造成、いわゆるミニ開発については全く手が打てません。お隣の千倉町では59年度に指導要綱を改定いたしまして、1000㎡を超える宅地造成については届出を出させることとし、その中で問題のある場合は町長の判断で3000㎡以上の開発行為と同様の扱いができるようにいたしました。

市内の排水路の現状を見ると、いわゆるミニ開発に対しても規制や

指導が行われる必要があるかと思います。館山市の宅地等開発指導要綱は昭和48年に決められていますが、これの見直しを進め、3000㎡以下につきましても対応できるようにすべきと思うのですが、いかがお考えでありましょうか。

第3点は、非核平和館山市宣言についてお尋ねをいたします。

今年も去る8月29日、コミュニティセンターで被爆者の方々を中心に反核フェスティバルの行事が行われました。私も原爆写真展を見させていただきましたが、改めて核兵器の破壊力の恐ろしさを感じました。核兵器は地球上からなくさなければならない、その思いを強くいたしましたところであります。

これまで、私は、昭和58年の9月議会、また60年の3月議会で非核平和都市宣言をするよう市長に提案をしてまいりました。市長は、趣旨は十分理解できるが当面は考えていないと御答弁をなさってきたわけであります。この間にも、核兵器廃絶を求める運動は広がり、全国で1445の市町村が非核宣言を行っております。我が千葉県では28市のうちちょうど半分の14市が非核平和都市を宣言するまでになってまいりました。核兵器廃絶は唯一の被爆国である日本国民の悲願であります。こうした市民の願いを市政の基本方向として内外に宣言することは大変に重要なことと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

第4点は、転作田の固定資産税、都市計画税は減免すべきと思うかどうかという点でございます。

自民党政府の減反政策の押しつけで今年度の転作実績は435%にも及んでおります。政治によって田としての機能が失われました。固定資産税や都市計画税の課税は田としての評価を変えるべきであります。固定資産評価基準によれば、土地評価の基本は土地の現況によるものと明記されております。地目が登記簿上、あるいは台帳上、田であっても、現況が畑であれば当然畑として評価し課税すべきですし、現況が荒れ地であれば当然雑種地として評価し課税すべきであります。しかも、この評価の決定は市長の権限であります。転作田は水稻の収益が保証されない土地であり、基本的には田としての評価をなすべきではないと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

以上、4点についてお尋ねをいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

第1点は、国保税の問題でございますが、国の負担金削減と医療費の増高によりまして、国保税が高額化しておりますことは私も十分承知しているところでございます。これは本市だけの問題ではなく全国的な傾向でございます。そして、基本的には各種医療保険制度間の制度的な矛盾に起因するものでありますことは神田議員も十分御承知のことだと存じます。

このような状況から、現在、社会保険審議会が基本問題等小委員会を発足させまして、本年1月施行されました老人保健法改正による医療保険制度間の負担の公平を踏まえまして、制度の一元化を検討しているところでございます。厚生省等におきまして、去る5月8日に国保問題懇談会を発足させまして、保険者の医療費、所得など地域格差問題をすでに4回にわたって審議を重ねているところだと伺っております。

また、国の来年度予算の概算要求がされた段階でありますので、これらの動向を見極めながら、今後この問題に対処してまいりたいと考えております。

次に、第2点市内排水路の整備についての御質問でございますが、宅地造成等による排水施設整備は、0.3%以上の開発につきましては館山市宅地等開発指導要綱並びに都市計画法に基づく開発行為の事前協議及び許可条件の中で良好な住環境が確保できるよう整備基準を定めております。しかしながら、0.3%未満の宅地造成等につきましては、事前協議等は要しないことになっております。

今後の対応につきましては、建築基準法との関連もございしますが、良好な住環境を確保するため、排水施設等必要な施設、設置がなされるよう館山市宅地等開発指導要綱等に準じた指導を検討してまいります。

次に、第3点、非核平和館山市都市宣言をする考えはないかという御質問でございますが、去る60年の定例議会でも申し上げましたが、平和と安全が確保されますことは、だれしもが願っているところでござい

まして、また市民の福祉の根底をなすものであることは申すまでもないところでございます。

したがいまして、御質問の御趣旨は十分理解できるところでございますが、御案内のように請願が不採択になった経緯もございますし、また宣言をした他市の状況を伺いますと議員提案が多く、しかも全員の総意が反映されているということでございますして、私も宣言につきましては議員の皆さま方や市民の皆さま方の総意が反映されるような形が一番適切な方法ではないかと考えております。

第4点、転作田の固定資産税、都市計画税は減免すべきと思うがという御質問でございますが、この見解につきましては自治省事務次官通達等により具体的に示されておまして、水田から畑作物への生産転換が行われた場合、果樹、アスパラガスなど永年性作物への転換についてのみ畑と認定することとされております。

本市におきましても、この通達等を受け、個々の転作田について賦課期日現在の客観的事実に基づいて認定しているところでございます。

以上、答弁を終わります。

○11番（神田守隆君） 単純、率直に御質問いたします。国保税は高過ぎると思いますか。

○市長（半澤良一君） 大変、高額になっているという事実は認めます。

○11番（神田守隆君） 実際、市長さん、いろいろそれらの経過についても御説明がありました。確かにこの国保が高いということについてはお認めになられているわけですから、そこで今年度が基金の取り崩し等によってすでに——今後の制度改定等の動きもありますけれども、しかし直ちに一元化という問題についても来年度の見通しの中では無理だろうというふうに思います。そういう中で来年度の国保の問題については、これまでたびたび市長さんもしわれてきました、一般会計からの繰り入れについてはまず基金からの取り崩しというお話ありましたけれども、まさに緊急措置ということをとらざるを得ないということを感じるんですが、いかがですか。

○市長（半澤良一君） 来年度の予算編成は、その段階で考えます。

○11番（神田守隆君） その時点ということでもありますけれども、も

ちろんその時点で検討しなきゃならぬ、今はなかなか言えないということだろうと思いますが……。

この国保の問題で、地方 6 団体を中心にいわゆる大蔵省あたりから都道府県負担問題が出ておるわけです。国の負担を都道府県に転嫁する、このことには断固反対するんだということが地方 6 団体の意向として打ち出されているわけでありますが、この点については市長さんもそのとおりだということによろしいのでしょうか。

◎市長（半澤良一君） そう考えております。

◎11番（神田守隆君） 国保は本当に大変な事態かと思えます。今後の国保問題の懇談会の動向なんかも非常に注目をしていかなきゃいけない、国の負担転嫁が都道府県負担という形で今後出てくる情勢ではないかというふうに思うわけでありますけれども、それだけに地方 6 団体含めまして何とかこうした国の負担の転嫁ということは許さないということで、今後大きな国民的な運動にしていかなければならないと思えますし、市長さんもそういう点でぜひがんばっていただきたいというふうに思います。

そして、今、国保の問題で緊急措置として一般会計からの繰り入れについてもやむを得ないだろうというように私は感じを持っているわけですが、今年度、富津では 1 億 5 0 0 0 万一般会計から繰り入れをしていますが、袖ヶ浦でも 1 億 5 0 0 0 万とか君津でも 8 2 0 0 万とか、かなりやはり高額の金額が一般会計から繰り入れをされているというふうに思うんですが、こうした他市の繰り入れの状況についてお調べがありますか。

◎民生部長（渡辺 弘君） 一般会計からの繰り入れの状況でございますが、あくまでも当初予算ベースで申し上げますと、7 市が一般会計から繰り入れておりません。

◎11番（神田守隆君） 7 市のうちの 1 つが館山市ということで本当に少数派になってしまったということだろうと思えます。

次に、市内の排水路の整備問題についてであります。0.3 米未満のいわゆるミニ開発が乱開発につながるということで、他市では——私が先ほど御紹介いたしました千倉町なんかでも 59 年度に指導要綱が改

定になるということで、非常に0.3%未満についてもそれなりの対応をしていくというふうになっているようですが、先ほどのお話では今後検討するということでもありますけれども、検討という場合には具体的にいつの時期からこの問題について——例えば、来年度ぐらいからこうしたものを考えるということなのかどうか。

それと、0.3%をさらに下回るいわゆるミニ開発に対する規制をした場合に、職員の配置等の問題でいろいろと仕事量がふえるとか、こうした点で問題があるのかないのか、その辺についてはいかがですか。

◎経済部長（安西良一君）　ただいまの御質問でございますが、現時点ですでに他市の状況も一部調査をしてございます。なお、他市につきましてももう少し詳しく調査をいたしまして、それらを参考にいたしまして館山市の場合どうしたらいいかというようなことを検討していきたいというふうに考えております。

なお、現時点で職員的にはどうなのか、現在0.3%、それを0.1にしますと相当事務量もふえてまいります。しかしながら、やはり周辺の方々にこれらが迷惑になったんではいけないというようなことも兼ねあわせまして、現時点ではその指導方法をいかにしたらいいかということを検討、研究をいたしまして対処をしていきたい。そして、できるだけ現員の中でやりくりをしていきたいというふうに考えております。

◎11番（神田守隆君）　現員の中でやれば一番いいんでしょうけれども、しかし、実際のいわゆる開発を見てますと、0.3%ぎりぎりのいわゆるミニ開発がたくさんあるんですよ。ですから、それを下げるとなるとかなりやはり対象件数がふえるということになるから、やり方もあるんでしょうけれども、実際、初めから現在の人員でというふうに部長さんおっしゃられて、市長さんに遠慮されているんじゃないかと思えますけれども、やはりこのことがらからいって場合によっては人がふえるのもやむを得ないし、市長さんもそういうことでよろしいでしょうね。

◎市長（半澤良一君）　人がふえることはあまり喜ばしいことではございませんが、私、いつも職員に言っているんですが、「君たちの給料は市民の税金からもらっているんだ」ということで、それだけ市民に負担をかけることになりますから、増員は芳しいことではないと思いますけ

れども、また検討の過程の中でいろいろ検討します。

○ 1 1 番（神田守隆君） 市長さんもああ言ってますから、初めから現員ということで考えずに、いろいろ知恵を絞りながら効率的な行政ができるようにしていただきたいと思います。

次に、非核平和館山市宣言についてであります、市長さんのお考えとしては議員の方からそうした決議を出してもらいたいというお話でしたが、市長さん自身はこうした非核平和館山市宣言をするということについては十分理解できるということでもありますから、それはそれでよくわかりました。

そこで、私、一つだけ市長さんの考えを聞いておきたいと思うんですが、非核都市宣言は日本の平和に有害ですということが、自民党さんがつくったパンフにそういう内容が出ているんです。御存じないのかどうかわかりませんが、そういうパンフレットがあります。その中で主張しているのは、通常の兵器がある限り核兵器を廃絶すると戦争になってしまうんだ、だから、核兵器の廃絶は通常の兵器と一緒に廃棄するんでなければ意味のないことなんだ、こういう議論をして、非核都市宣言ということはやれば日本の平和に危険だという議論を組み立てているんですが、私は決してそうではないと思うんです。やはり日本が唯一の被爆国の国民として他の通常兵器と核兵器というのは根本的に違う、したがってこうした他の兵器と切り離して、核兵器というものはまず第一に地球上から廃絶しなければならない、これがやはり今日本でいわれている核兵器廃絶という運動の意味じゃないかと思うんです。

そこで、市長さんにお伺いしたいのは、特に核兵器廃絶ということの意味、通常兵器と一緒になければ核兵器の廃絶はできないんだということは、事実上、核兵器廃絶を究極のかなたに追いやってしまうといえますか、そういう結果にならざるを得ないというふうに思うんですが、その辺、市長さんは核兵器廃絶ということの意味をどういうふうにお受けとめになっておりますか。

○市長（半澤良一君） ただいまお話の自民党が出したパンフレットというのは読んでおりませんので、正確なお答えができませんけれども、核兵器のない平和な世界というのはだれもが望んでいることだと思うわ

けでございます。

○ 1 1 番 (神田守隆君) 国際連合がつくられて、その第 1 号決議というのが——核兵器を含んだ大量殺りく兵器を他の通常兵器とは区別してこれをなくそうということが国際連合創立の最初の決議だったそうです。そういう点では非常に大事なことだろうと思います。市長さんは自民党のパンフレットをお読みでないそうでありますから、私も手に入れまして、お示しをしましてまた御検討いただきたいと思います。

次に、転作田の固定資産税、都市計画税の減免についてお伺いいたしますが、先ほどのお話ですと、永年性作物——果樹、アスパラガスですか、こういうものについては畑としての評価にするように自治省からの通知が来ているんだということでありました。そういうふうになさっていますか。

○ 総務部長 (飯野芳郎君) 今年度、転作を館山市でやっております面積が 4 3 5 ㌔あるわけでございますけれども、このうち永年作物への転換をされたものが 6 ㌔あるわけでございます。この課税の実態につきまして現在詳細を調査しているわけでございますけれども、必ずしも通達のとおりやっているとすることはできないわけでございますけれども、これからは関係部局の連絡を密にいたしまして、課税あるいは評価の適正化を図っていきたいというふうに考えております。

○ 1 1 番 (神田守隆君) わざわざ 7 月の 3 1 日に我が党の藤田スミ議員の国会での質疑の中で、指導が徹底してないから指導を徹底するようにいたしますという答弁が当局から出されているんです。それだけに国からもそうした指導が今後来るのではなかろうかなと思いますが、永年性作物の場合には畑としての評価にかえていく……。

さらに、国会等の論議を読みますと、ほかにも、例えば転作田にビニールハウスをつくった場合とか、あるいは温室を作った場合ですとか、こういう場合も当然これは畑の評価になるんだろうと思うんですがいかがですか。

○ 総務部長 (飯野芳郎君) 農地の中に温室等をつくる場合の底地の評価のことでございますけれども、温室の中で耕作が行われている場合は農地として評価するというふうに規定されているわけでございます。さ

らに、温室であってもじかに利用しないで箱とか鉢等を利用いたしまして草花を栽培するような場合につきましては、雑種地として認定して課税をしているところでございます。

○ 1 1 番（神田守隆君） 転作田の評価の問題というのは、これまであまり話題にもされなかった問題で、新たに出てきた問題だけにとまどいもあるかと思うんですが、基本的には、水田であるにもかかわらず転作ということで水田としての機能が実際できない、それだけじゃ課税評価の場合にはまだ水田としての機能が失われていないから水田としての評価をして課税するんだというのが課税当局の立場のようですけども、そういう中でも一定の分野については当然畑として評価する。——永年性作物の場合ですとか、あるいは一定の施設園芸なんかをした場合、こうした場合だとか、出されておりますので、そうした点を十分研究いただいて積極的に市自身が評価をどんどんやっていくという立場でお考えいただきたいと思うんですが、いかがですか。

○ 総務部長（飯野芳郎君） 先ほども申し上げましたとおり、今後は関係部局の連絡を密にいたしまして、自治省通達に基づきまして評価及び課税の適正化に努めてまいりたいというふうに考えております。

○ 1 1 番（神田守隆君） 終わります。

○ 議長（飯田義男君） 以上で通告による一般質問を終わります。

散 会 午後 4 時 3 1 分

○ 議長（飯田義男君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、明 9 月 1 7 日午前 1 0 時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

なお、この際申し上げます。各会計決算に対する質疑通告の締め切りは 9 月 1 7 日正午でありますので、申し添えます。

○ 本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問